

ラスコートシャッター1型

取付説明書

- このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- 正しく施工、組付けをしていただくために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。

- 工事区分にご注意ください。
- 22ページ「24.結線」のみ、有資格の電気工事店様にご依頼ください。

■梱包明細書

パネル本体ユニット

①前面パネルセット

名 称	員 数
前面パネル本体	1
光電センサー用CD管(L=4800, 1800)	各1

②側壁セット(右)

名 称	員 数
側壁パネル本体(右)	1
ガイドレール(右)	1
巾木1～5	各1
巾木取付ネジ φ4×19テクスネジ	20

③側壁セット(左)

名 称	員 数
側壁パネル本体(左)	1
ガイドレール(左)	1
巾木1～5	各1
巾木取付ネジ φ4×19テクスネジ	20

④部品セット

名 称		員 数
	ブラケット(右)	1
	ブラケット(左)	1
	支柱用ベースプレート	2
	控え柱用ベースプレート(左右)	各1
	支柱レベル調整金具	4
	控え柱レベル調整金具	2
	前面パネル取付金具	4
	前面パネル調整取付金具	2
小袋 入 り	ブラケット組付ボルト M8×18セムス	4
	ホールインアンカー M10	8
	支柱ベースプレートジョイントボルト M8×140六角ボルト	4
	支柱ベースプレートジョイント平座金 M8用	4
	支柱ベースプレートジョイントパネ座金 M8用	4
	支柱ベースプレートジョイント六角ナット M8用	4
	控え柱ベースプレート固定・調整ボルト M10×50六角ボルト	6
	控え柱ベースプレート固定座金1 M10用	2
	控え柱ベースプレート固定座金2 M10用	2
	支柱レベル調整金具組付ボルト M8×12六角ボルト	8
	支柱レベル調整ボルト M10×100六角ボルト	4
	控え柱レベル調整金具組付ネジ M4×10ナベ小ネジ	8
	前面パネル取付金具組付ボルト M8×18セムス	8
	前面パネル調整取付金具組付ボルト M10×25セムス	6
	レール取付ネジ M4×10ナベ小ネジ	12
	プッシュボタン φ10用	12

④部品セット(つづき)

名 称		員 数
小袋入り	アンテナ取付金具組付ネジ φ 4×14ナベタッピング	2
	アンテナ取付金具組付座金	2
	M4用シーリングワッシャー	
	インシュロック・バンド・テープ付固定具	1
センサー取付プレート		2
センサー取付プレート取付ネジ φ 4×8		4
センサー取付ネジ M4×25		4
センサー取付ナット M4		4
センサーカバー(R,L)		各1
センサーカバー取付ネジ		8
投光側光電センサー(コード5 m付)		1
受光側光電センサー(コード2 m付)		1
シール剤(333ml)		1
CD管固定サドル		2
CD管固定サドル取付ネジ φ 4×10		4
ケース防水材(t=3×15 ℓ=1.5m)		2
受信機およびアンテナ取付ネジ φ 4×19テクス		4
取付説明書・取扱説明書・保証書		各1

シャッターユニット

①スラットセット

名 称	員 数		
	ステン	スチール	アルミ
スラット本体(ステン)	1	—	—
スラット本体(スチール)	—	1	—
スラット本体(アルミ)	—	—	1

②シャフト

名 称	員 数	
	ステン・スチール	アルミ
シャフト本体(ステン・スチール)	1	—
シャフト本体(アルミ)	—	1
アンテナ	1	1
リモコン送信機	1	1
クラッチ解放リング	1	1
ワイヤークリップ	1	1
アングル材固定ネジ M4×10特サラ	14	14
カバー取付ネジ φ4×12トラス	20	20
スラット固定ボルト M8×25	3	3
シャフト固定ボルト M8×65	2	2
シャフト・スラット取付ナット M8	5	5
シャフト・スラット取付平座金	10	10
シャフト・スラット取付パネ座金	5	5

■梱包明細書(つづき)

シャッターユニット (つづき)

③フレーム

名 称	員 数
カバーアングルA	3
カバーアングルB	1

④カバー

名 称	員 数
上板(右)	1
前板(右)	1
下板(右)	1
上板(左)	1
前板(左)	1
下板(左)	1

⑤笠木セット

名 称		員 数
前面パネル笠木		1
側壁笠木		2
笠木用コーナーキャップ		2
笠木用端部キャップ		2
小袋入り	コーナー・端部キャップ取付ネジ φ 4×14ナベ	14
	コーナー・端部キャップ取付座金	14
	M4用シーリングワッシャー	
	笠木・コーナーキャップ組付ネジ φ 4×19ピアスネジ	16
	笠木・コーナーキャップ組付座金 M4用シーリングワッシャー	16

※笠木は、W214とW230の2サイズよりの選択部材です。

※施工前に必ず別紙の「ラスコート商品・仕上げ施工の注意とお願い」をお読み下さい。

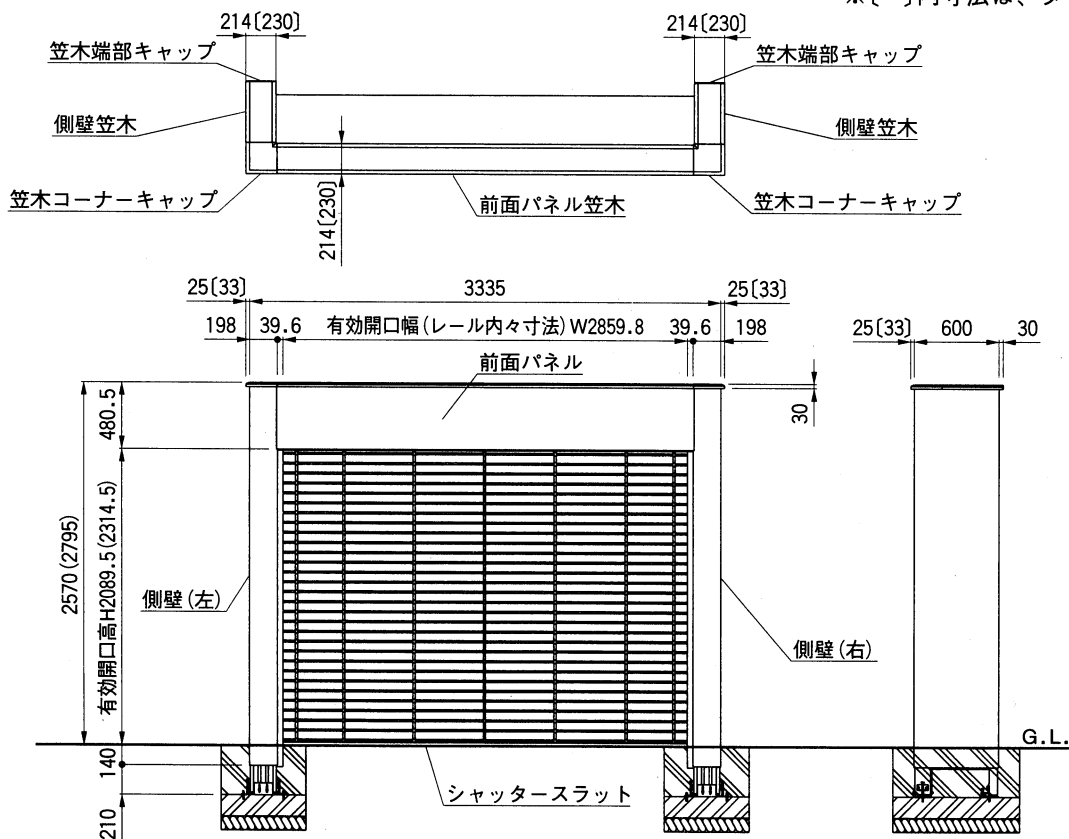
1.基本寸法および各部名称

1-1 ステン・スチールタイプ

※図は、H2090です。

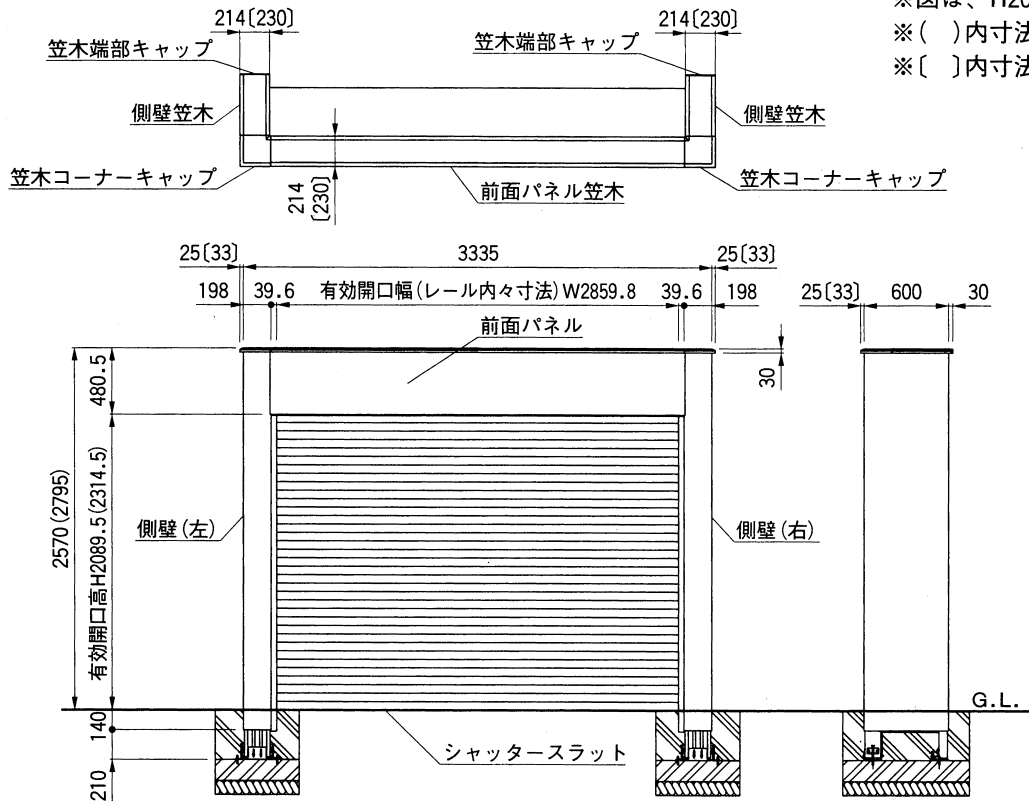
※()内寸法は、H2315です。

※[]内寸法は、タイル用笠木です。



1. つづき

1-2 アルミタイプ

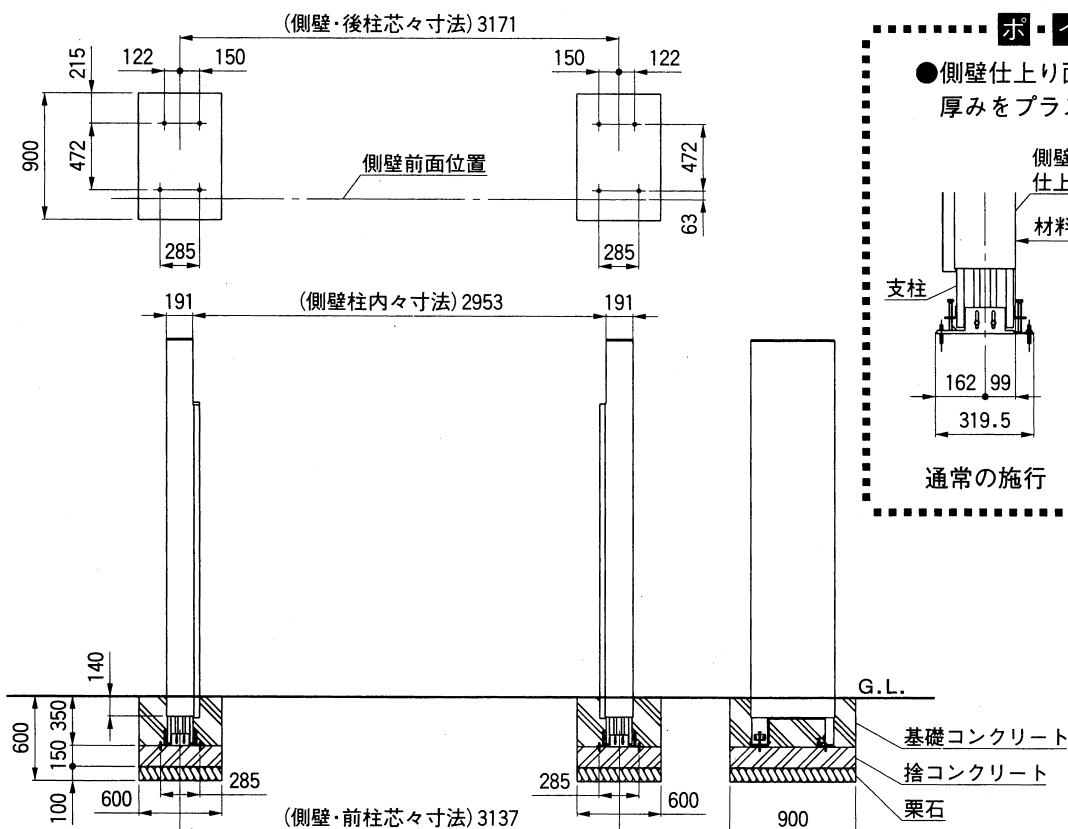


※図は、H2090です。

※()内寸法は、H2315です。

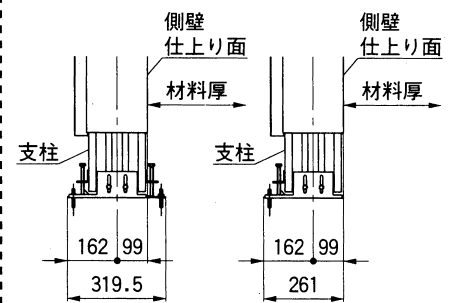
※[]内寸法は、タイル用笠木です。

2. 基本寸法・壁ユニット寸法



ポイント

- 側壁仕上り面にタイル、塗材の厚みをプラスして下さい。



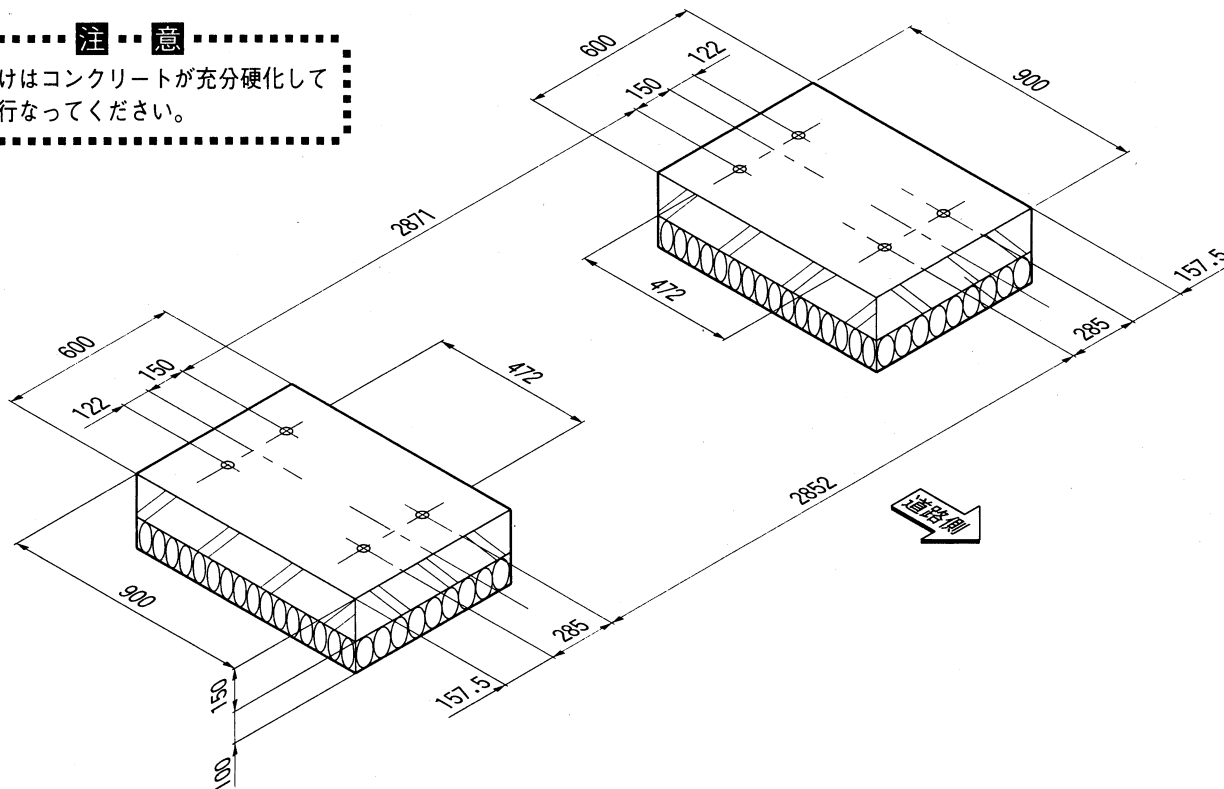
通常での施行 隣地境界での施行

3.基礎の施工

- ① 「2.基本寸法・壁ユニット寸法」を参考にして、捨てコンクリートを施工してください。
- ② 墨出しをして、ホールインアンカーの穴あけ($\phi 10.5$)を行なってください。
- ③ ホールインアンカーを打ち込んでください。

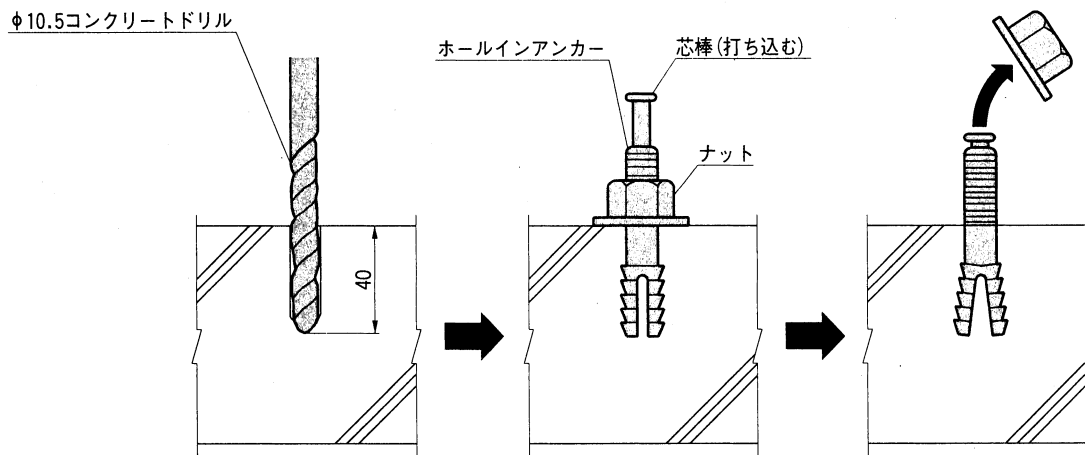
注 意

- 穴あけはコンクリートが充分硬化してから行なってください。



4.ホールインアンカーの施工

- ① 直径10.5mmのコンクリートドリルで、深さ40mmの下穴をあけてください。
- ② ホールインアンカーに付属のナットを、手で一杯までネジ込んでください。
- ③ 穴にホールインアンカーを入れ、芯棒をハンマー等で充分打ち込みます。
- ④ ナットを一担、取りはずしてください。

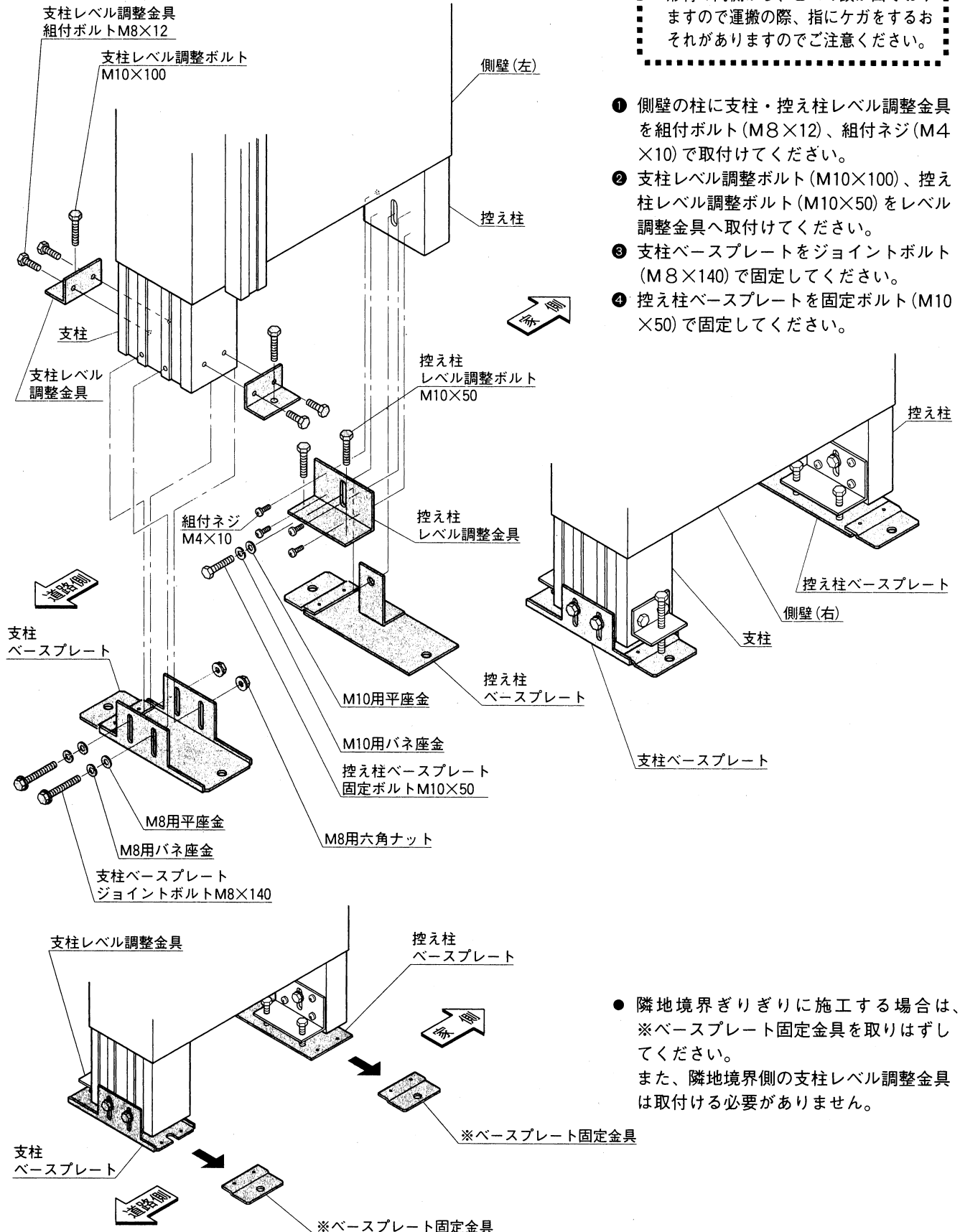


5. レベル調整金具・ベースプレートの取付け

注 意

● 形材の内側から、ビスの頭が出ておりますので運搬の際、指にケガをするおそれがありますのでご注意ください。

- ① 側壁の柱に支柱・控え柱レベル調整金具を組付ボルト (M8×12)、組付ネジ (M4×10) で取付けてください。
- ② 支柱レベル調整ボルト (M10×100)、控え柱レベル調整ボルト (M10×50) をレベル調整金具へ取付けてください。
- ③ 支柱ベースプレートをジョイントボルト (M8×140) で固定してください。
- ④ 控え柱ベースプレートを固定ボルト (M10×50) で固定してください。



- 隣地境界ぎりぎりに施工する場合は、※ベースプレート固定金具を取りはずしてください。また、隣地境界側の支柱レベル調整金具は取付ける必要がありません。

① 側壁を取付け位置に置いてください。

② ベースプレートをホールインアンカーに固定してください。

③ 調整ボルトをまわし、レベルの調整を行なってください。

④ 調整後、ボルトナットを本締めしてください。

前面パネル取付金具

前面パネル調整取付金具

M8×18セムス

M8×18セムス

M8×18セムス

前面パネル取付金具

側壁

M8×18セムス

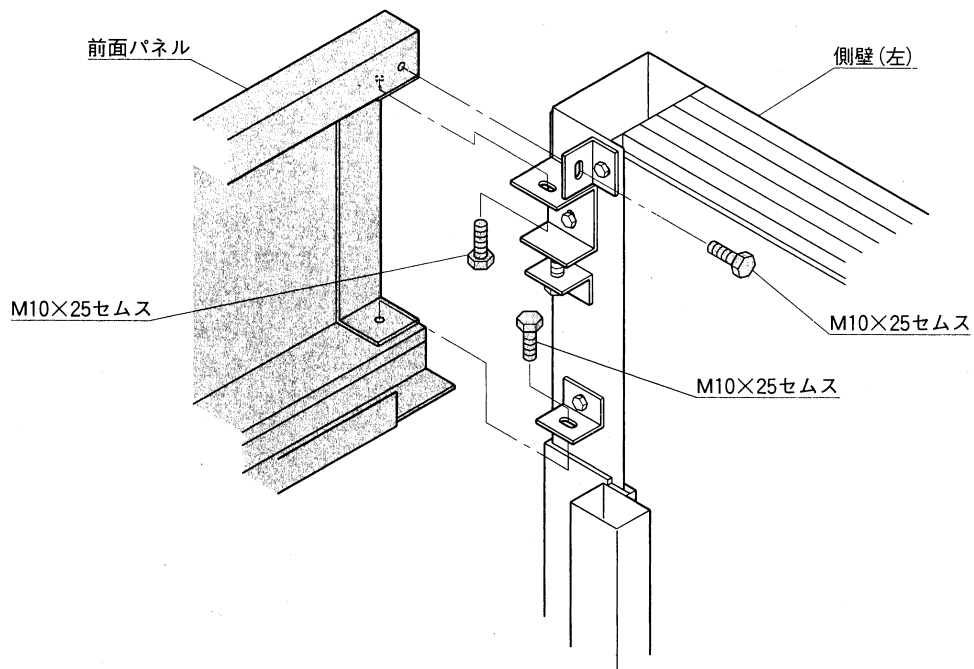
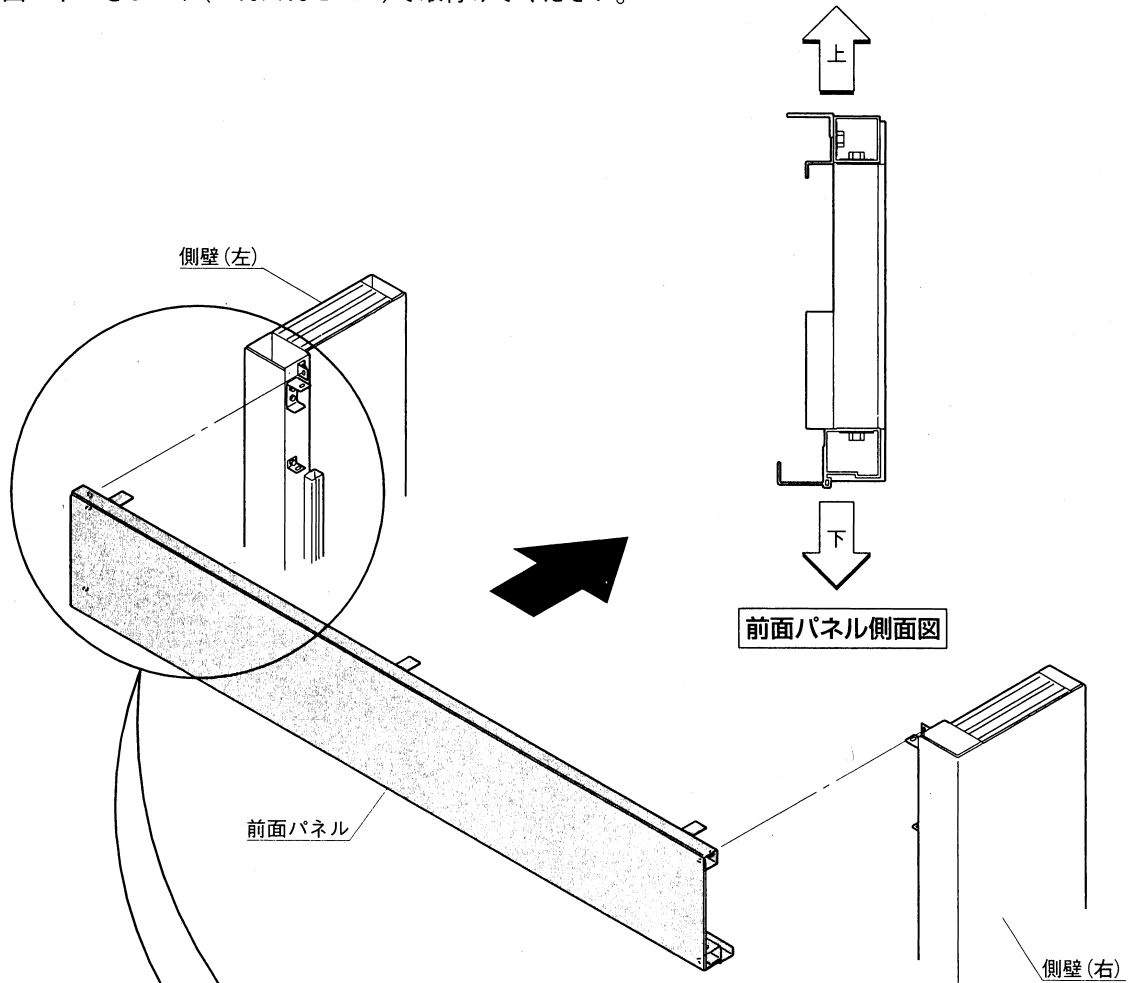
① 左右の側壁に前面パネル取付金具、前面パネル調整取付金具を組付ボルトM8×18で仮固定してください。

注 意

● 取付金具の向きを間違えないようにご注意ください。

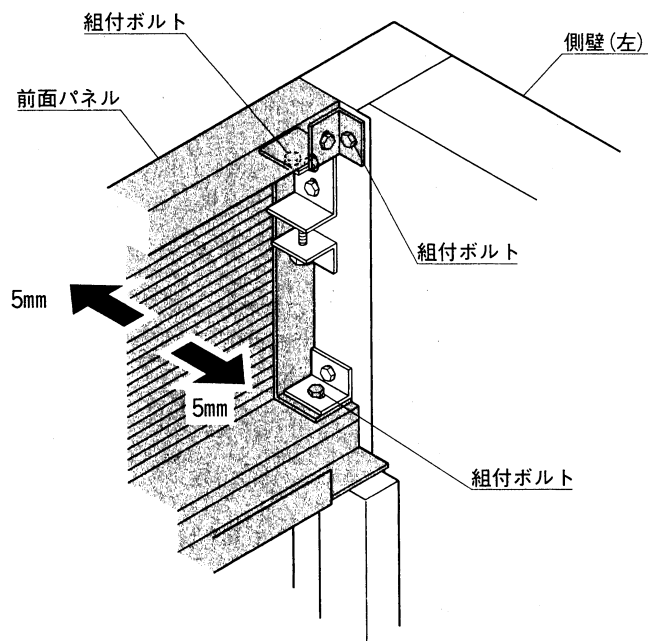
8. 前面パネルの取付け

- ① 側壁に前面パネルをボルト (M10×18セムス) で取付けてください。



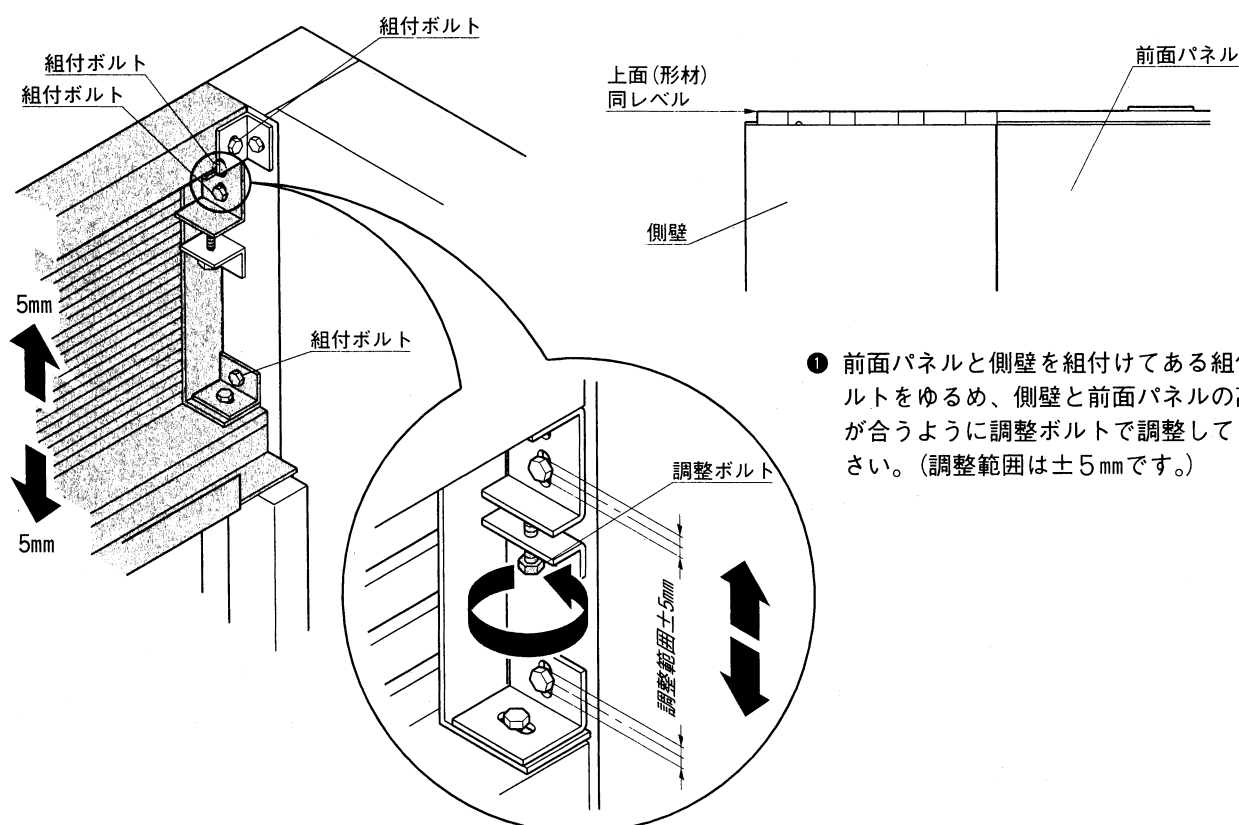
9. 壁のレベル調整

9-1 出幅のレベル調整



- ① 前面パネルと側壁を組付けてある組付ボルトをゆるめ、側壁と前面パネルのレベル調整を行なってください。(調整範囲は±5mmです。)

9-2 高さのレベル調整



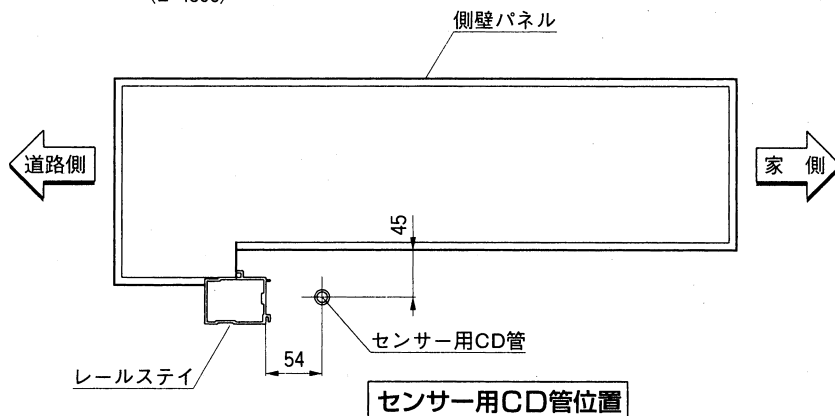
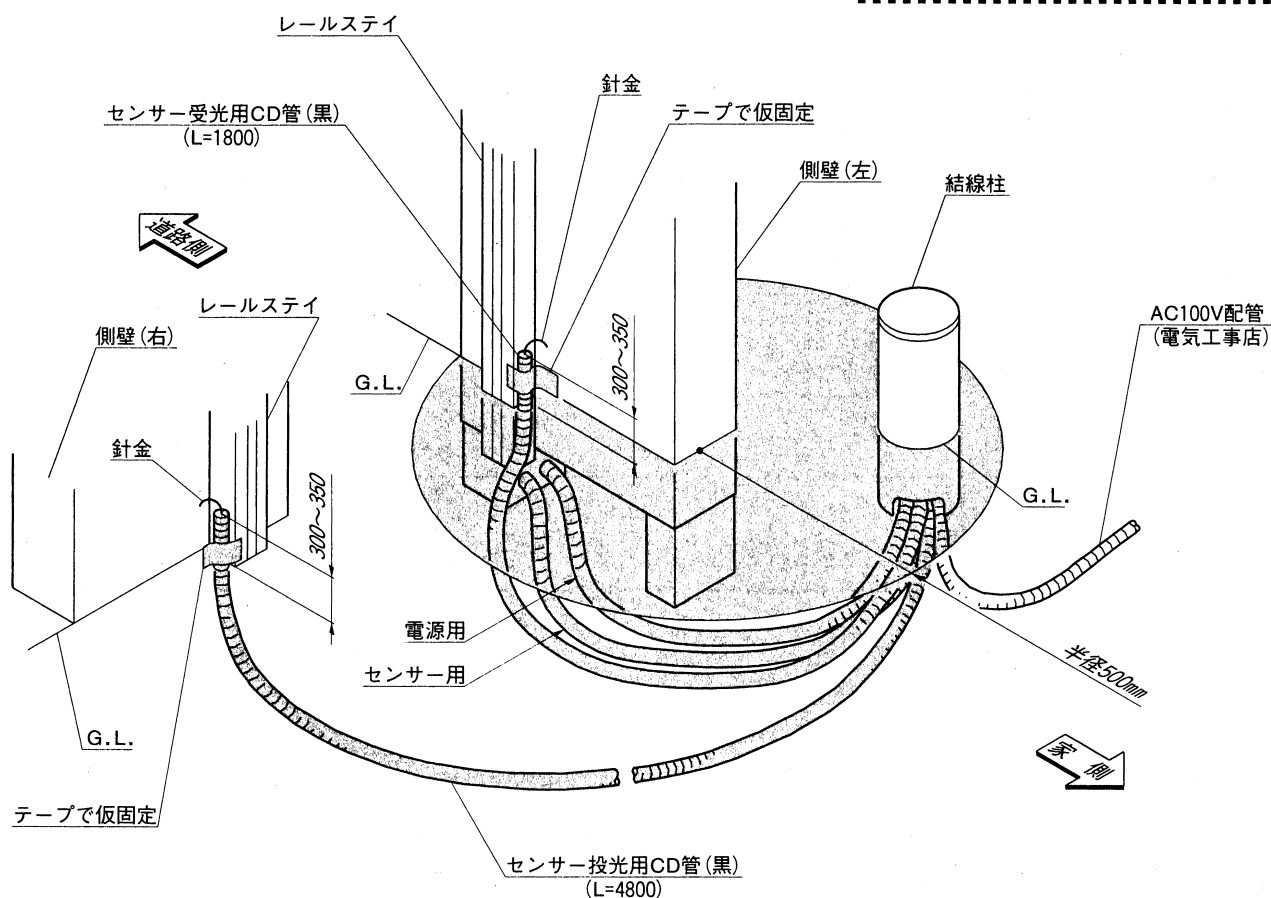
- ① 前面パネルと側壁を組付けてある組付ボルトをゆるめ、側壁と前面パネルの高さが合うように調整ボルトで調整してください。(調整範囲は±5mmです。)

10. CD管の配管

- ① 結線柱は、側壁(左)の家側面から半径500mm以内に施工してください。
- ② 側壁(支柱部)からのCD管(電源・センサー用)と、センサーからのCD管(センサー受光・投光用)の計4本を結線柱まで配線してください。
なお、結線柱内での電気工事は有資格の電気工事店様へご依頼ください。
- ③ センサー用CD管(黒)は、レールステイ最下部でG.L.より300~350mm出してテープにより仮固定してください。

注 意

● センサー用CD管(L=1800, 4800)にセンサーケーブルをあとで通しますので中に入っている針金は、はずさないでください。



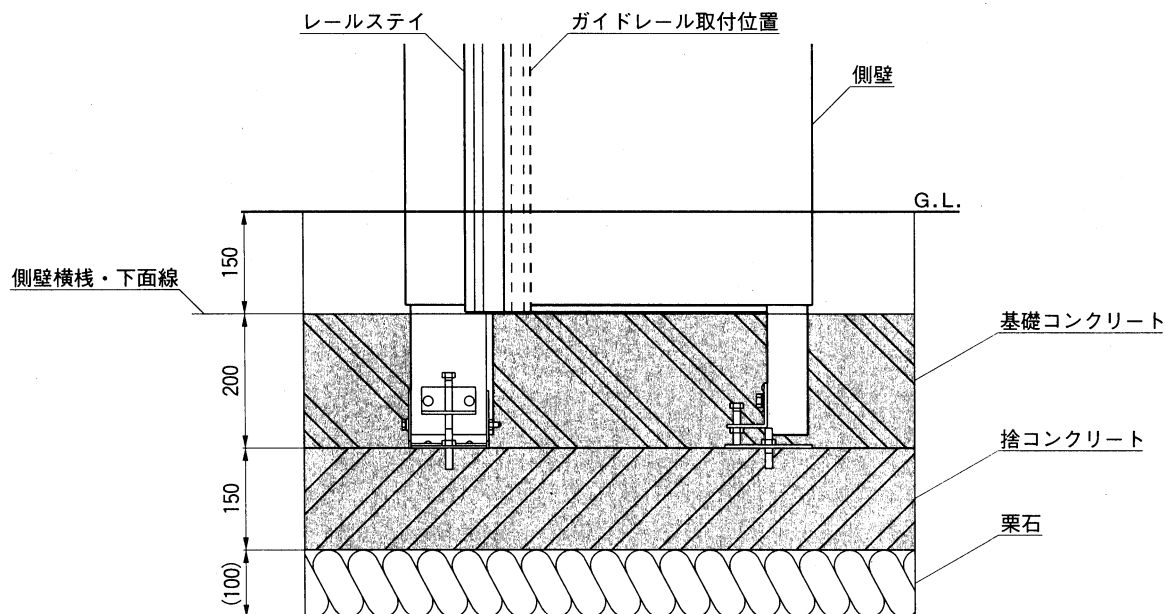
ポイント

21ページの「23.光電センサーの取付け」まで土間は仕上げないで下さい。

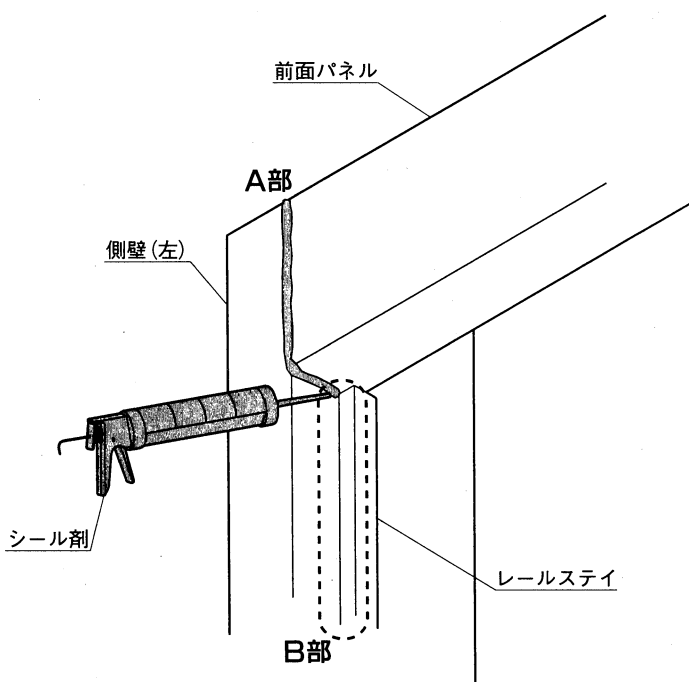
- ① 配管後、投光用および受光用光電センサーのケーブルを、レール下部のCD管より通してください。このとき、5mケーブルが付属している投光用光電センサーは側壁(右)より通してください。また、CD管に入れてあります針金を利用してケーブルを通してください。

11.基礎コンクリート打ち

- ① 基礎コンクリートを打設します。あとでガイドレールを取付けますので、側壁仕上げ下面までとしてください。特に支柱、ベースプレートのまわりには、充分行き渡るように打設してください。



12. シール剤の処理



- ① 側壁と前面パネルの合わせ目 (A 部) をシール剤で処理してください。
- ② タイルまたは塗剤による表面の仕上げを行なったあと、レールステイ (B 部) にも必ずシール剤、または市販のコーキング剤で処理してください。

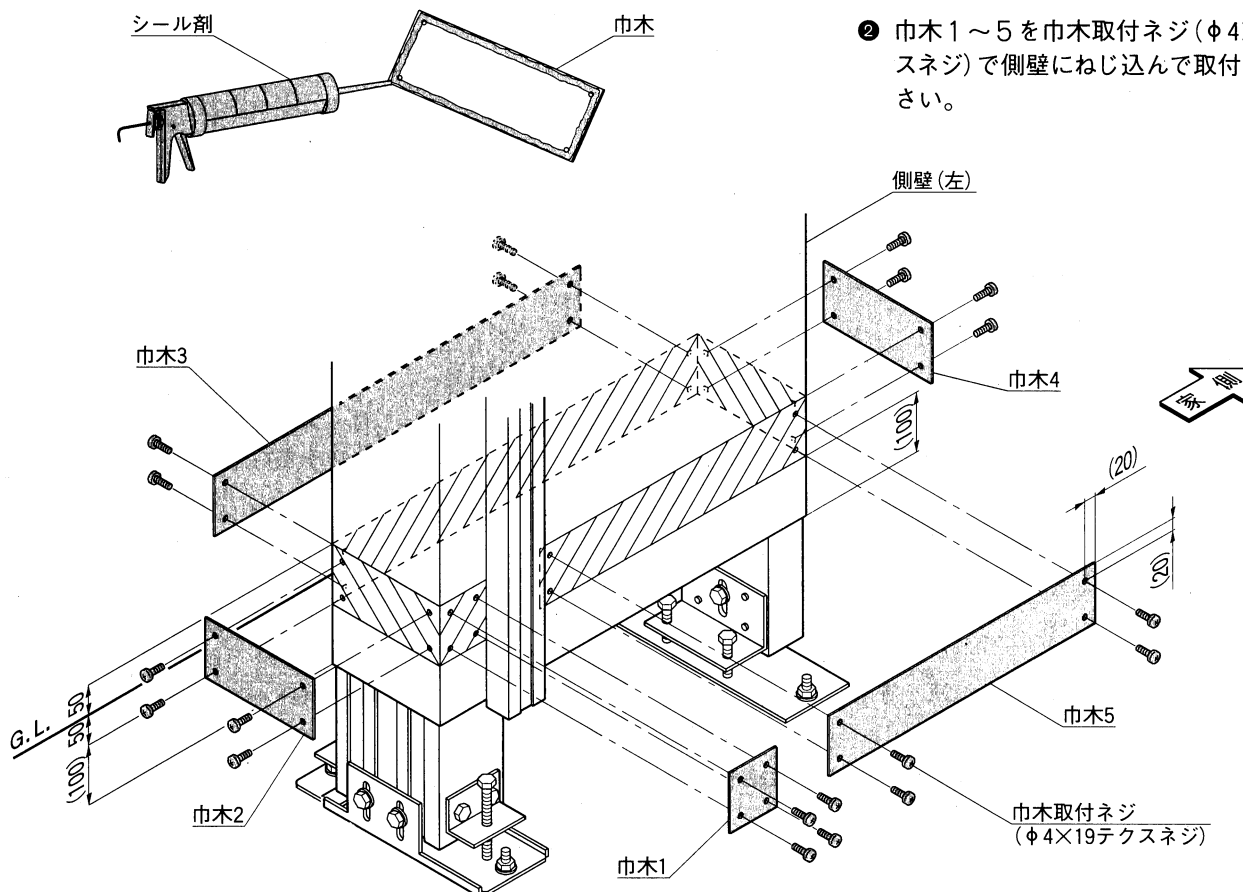
注意

- 必ず、まわりのマスキングを行ってからシール剤の処理を行ってください。

13. 巾木の取付け（塗材などでの表面仕上げの場合は、巾木を使用してください）

① 巾木1～5の裏面の全周にシール剤を塗布してください。

② 巾木1～5を巾木取付ネジ（φ4×19テクスネジ）で側壁にねじ込んで取付けてください。

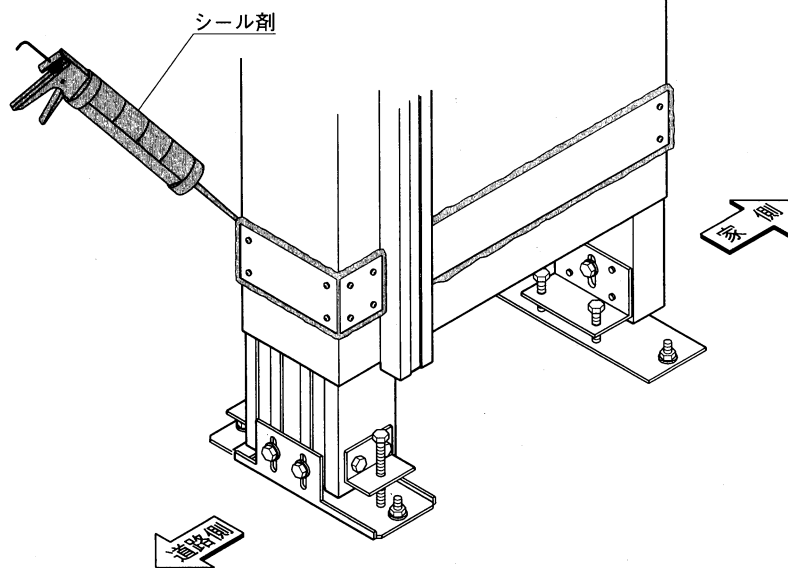


③ 側壁下地の仕上がり寸法に、多少誤差がありますので、巾木の合わせ目がうまく合わない場合はグラインダーで切断処理してください。

④ 巾木同士の合わせ目、側壁との隙間をシール剤で処理してください。

注 意

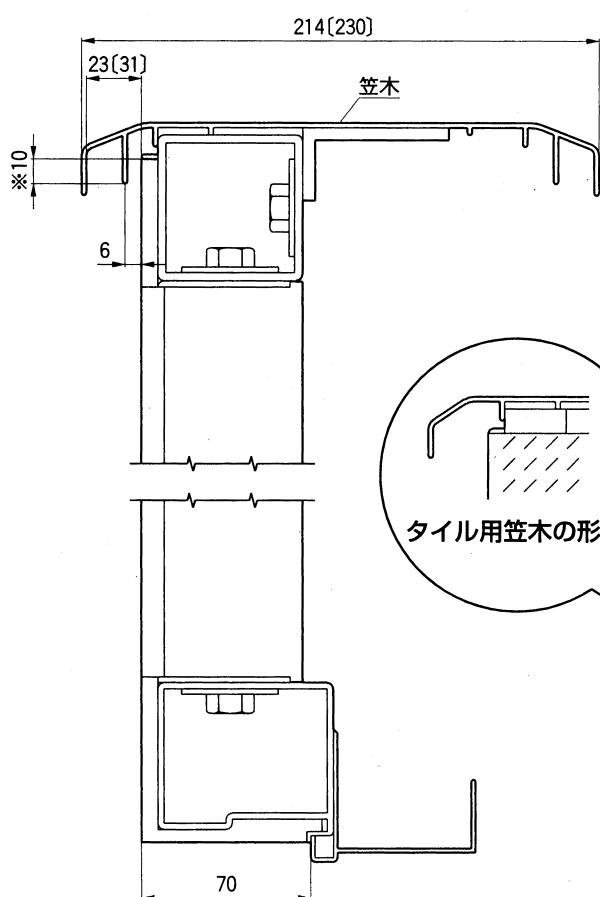
- 塗材仕上げの場合、地際は直接基礎に埋め込まず、必ず巾木を使用してください。
- 側壁下地を未処理の状態では基礎に埋め込まないでください。
- 側壁下地の最下端までタイルで仕上げる場合は、巾木は必要ありませんので、現場に合わせて仕上げ方法を選択してください。



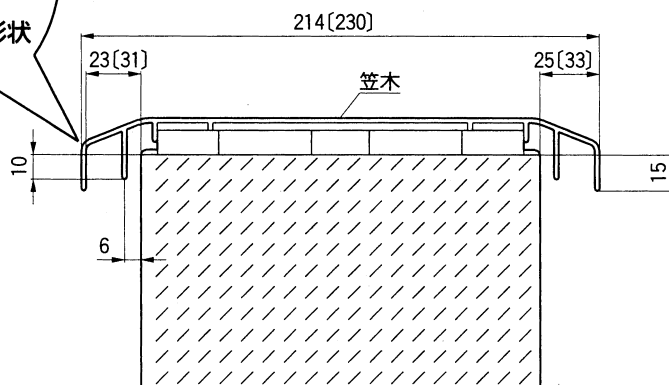
14. 表面材の仕上げ

- 表面材の仕上げを行なう前に、別紙「ラスコート商品・仕上げ施工の注意とお願い」を必ずお読みください。

14-1 笠木部品の納り



前面パネル



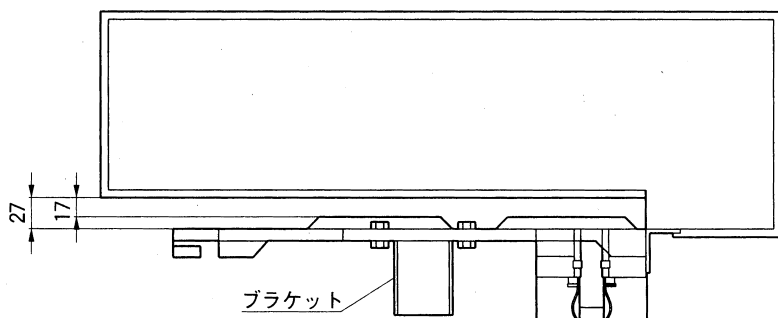
側壁

- ① タイル・塗材等で表面の仕上げを行なう場合、笠木のかぶる上から※10mmの部分は、厚さが5mm以上にならないようにしてください。
- ② タイル張りを行なう場合、タイル厚20mm以下のものを使用して仕上げてください。

注 意

- 笠木の出幅より厚いタイルを使用されますと、雨水によるヨゴレや白華の原因となる可能性があります。
- [] 内寸法は、タイル用笠木です。

14-2 ブラケットの納り



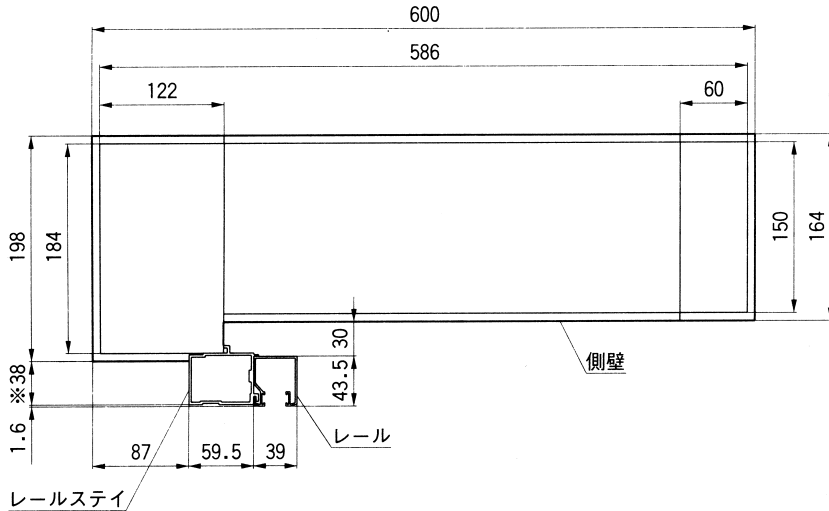
- ① 側壁内側のブラケット取付部分にタイルを張る場合、タイル仕上がり厚さが17mmを超えるものは、ブラケットの出張りに注意してタイルを張ってください。

注 意

- タイル仕上げを行なう前にブラケットを仮止めして、出張りの位置を確認してください。

14. つづき

14-3 レールの納り

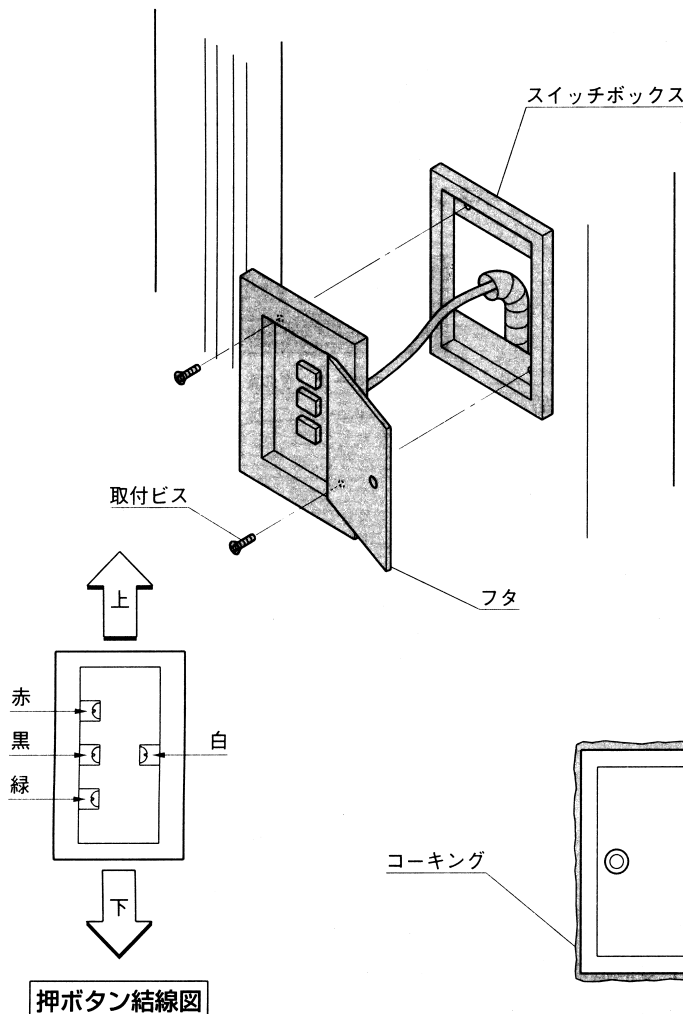


- ① レールステイ取付面にタイル、擬石などを張る場合、仕上りの厚さが※38mmを超えないようにしてください。
- ② レールはシャッター本体の取付け前にはずしておいてください。

注 意

- レールステイ取付け面の仕上りの厚さが※38mmを超えますと、シャッター間口寸法方向にとび出しますので、ご注意ください。

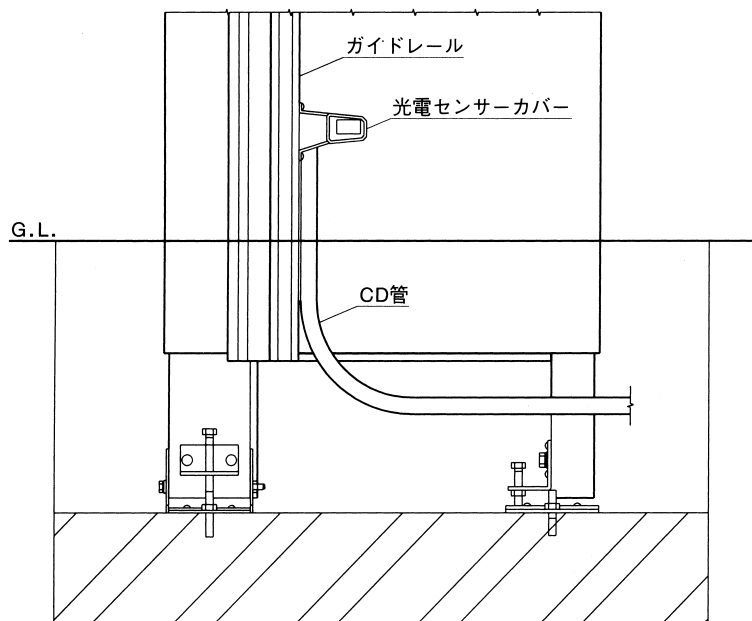
14-4 スイッチボックスまわりの処理



- ① タイル、または塗材の仕上げを行なう前にスイッチボックスのフタを取りはずしてください。配線コードも一度、取りはずしてください。
- ② 塗材の場合、スイッチボックスまわりをマスキングしてから仕上げの処理を行なってください。
- ③ 押ボタンスイッチ結線図に従って結線を行ない、スイッチボックスのフタを取付けてください。
- ④ 仕上げが終わりましたら、スイッチボックスのフタを取付けてから、必ずまわりをコーキングしてください。

14. つづき

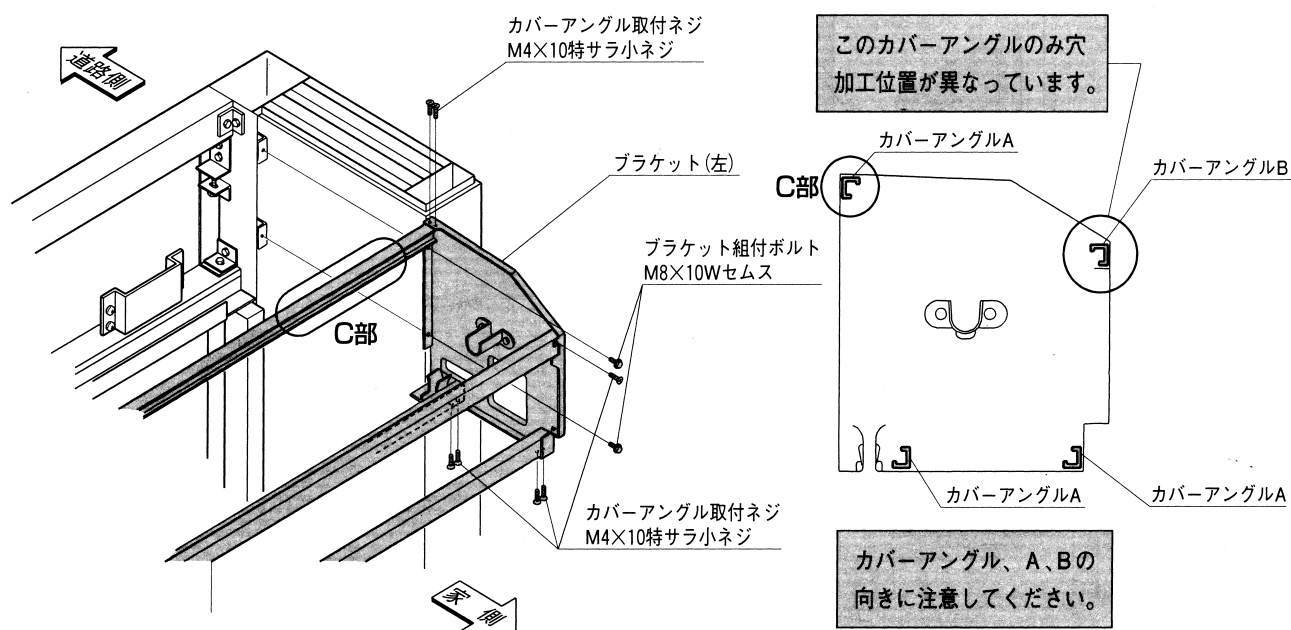
14-5 光電センサーまわりの処理



- ① 表面に張るタイル、擬石が厚さ20mmを超える場合、ガイドレールと光電センサーカバーを側壁に取付けてください。
P.20「22.ガイドレールの取付け」、
P.23「25.光電センサーの調整」参照
- ② ガイドレール、光電センサー、CD管に当たらないよう、タイル、擬石を張ってください。
- ③ ガイドレール、光電センサーをはずしてシャッターの取付けを行なってください。

15. ブラケット、カバーアングルA・Bの取付け

- ① ブラケットを側壁にブラケット組付ボルトM8×10Wセムスで固定してください。
- ② カバーアングル(A),(B)をカバーアングル取付ネジM4×10特サラ小ネジで、ブラケットへ固定してください。



注 意

- C部のカバーアングルは、P16「18.結線、ラジオ受受信機の固定」の作業後に取付けてください。

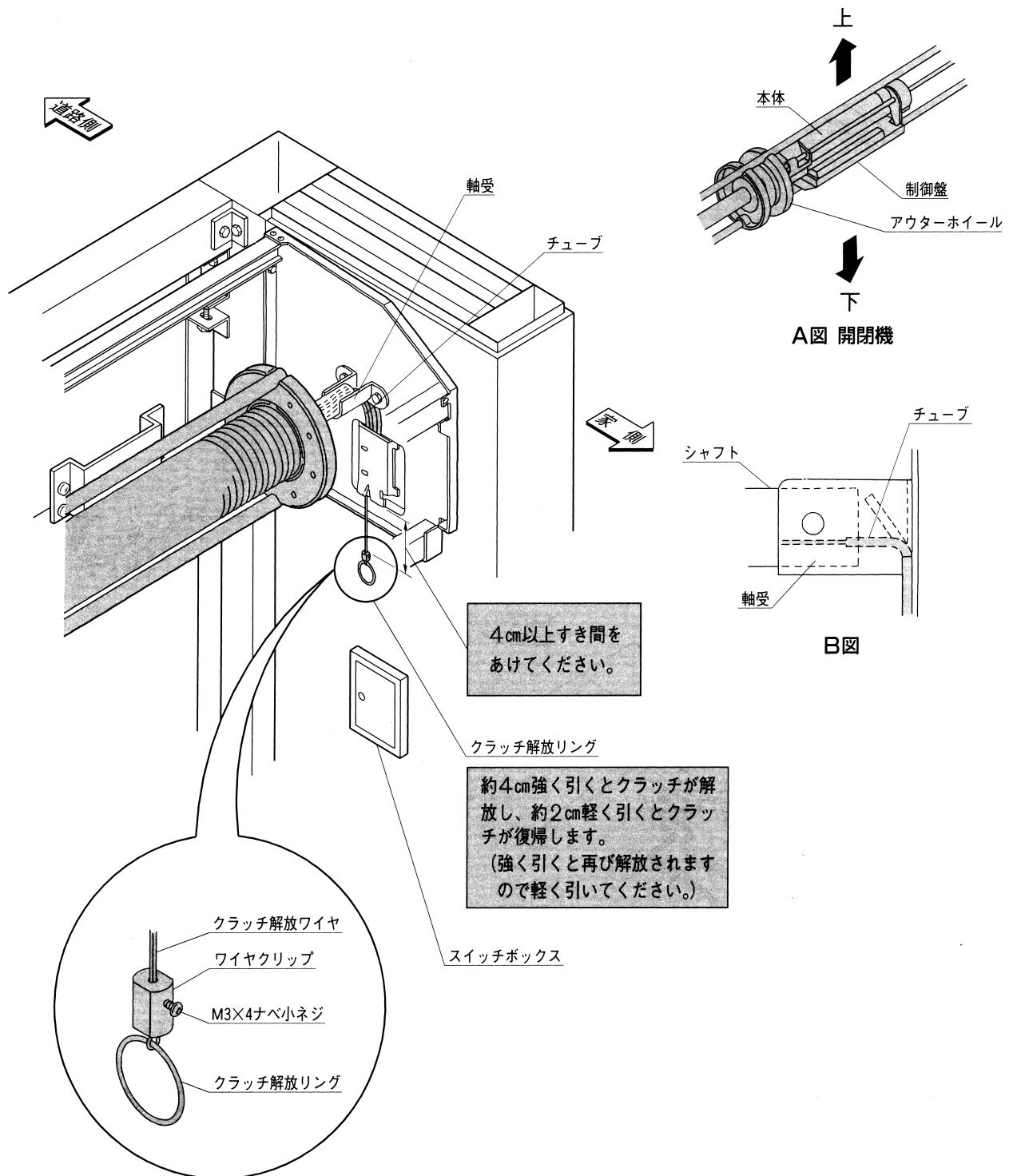
16. 巻取シャフトの取付およびクラッチ解放ワイヤの処理

- ① シャフトから出た電線を右側に、開閉機の制御盤を下側にして、巻取シャフトを軸受にのせてください。(A図参照)

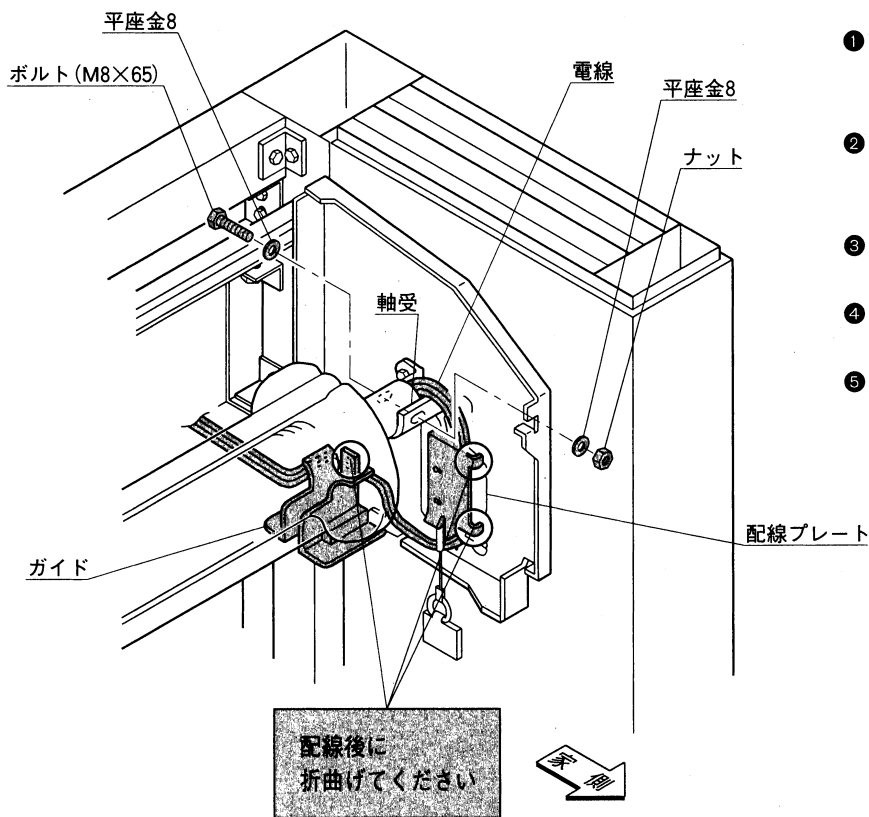
注 意

- 巻取シャフトは、コード側をスイッチボックスのある左側壁側にして取付けてください。

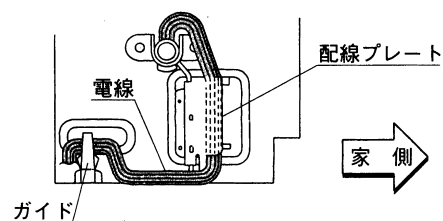
- ② クラッチ解放ワイヤをチューブに通してください。クラッチ解放ワイヤを通したあとにチューブを曲げてシャフトの中に入れてください。(B図参照)
- ③ クラッチ解放ワイヤにクラッチ解放リングを取付けて、ワイヤクリップで固定してください。



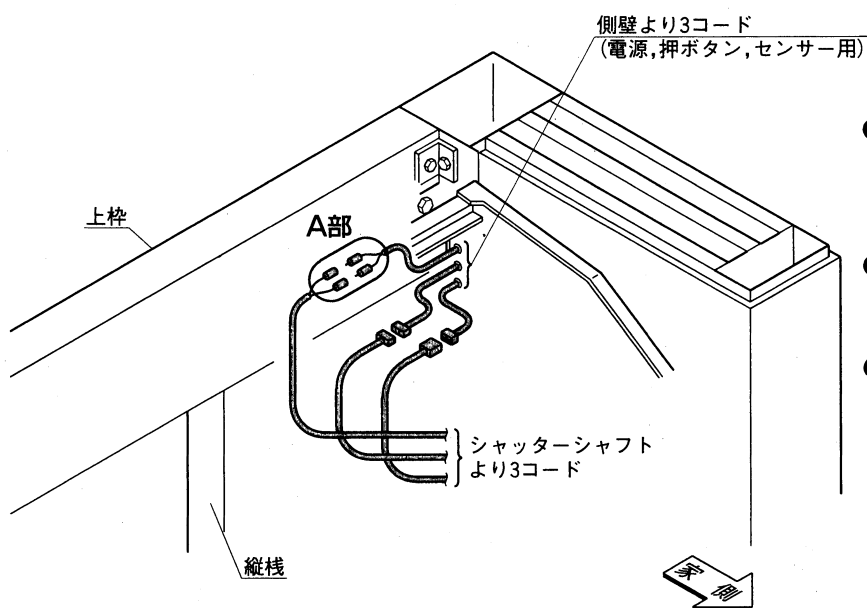
17. 電線の処理、シャフトの固定



- ① 電線を配線プレートに沿わせてください。
(たるまないように注意してください)
- ② 配線プレートの爪をマイナスドライバー等の先で押し込み、折曲げてください。
- ③ 電線をガイドのうしろに通して躯体側へ配線してください。
- ④ ガイドの上端を折曲げてください。
- ⑤ シャフトをボルト (M8×65) で軸受に固定してください。
(反対側もシャフトを軸受に固定してください)



18. 結線



- ① 各コネクターをジョイントしてください。
ジョイント部はA部を除いて2ヶ所あります。
- ② A部のコネクター (2芯) をジョイントしてください。
- ③ 電線がシャッターと接触しないように、
電線を電線カバーの中に入れてください。

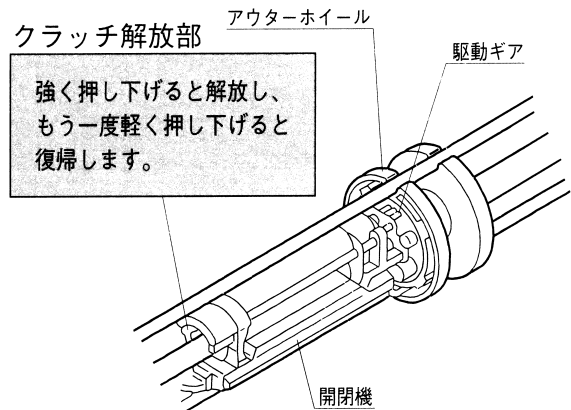
ボ・イ・ン・ト

同じ形状のコネクター同士を接続してください。

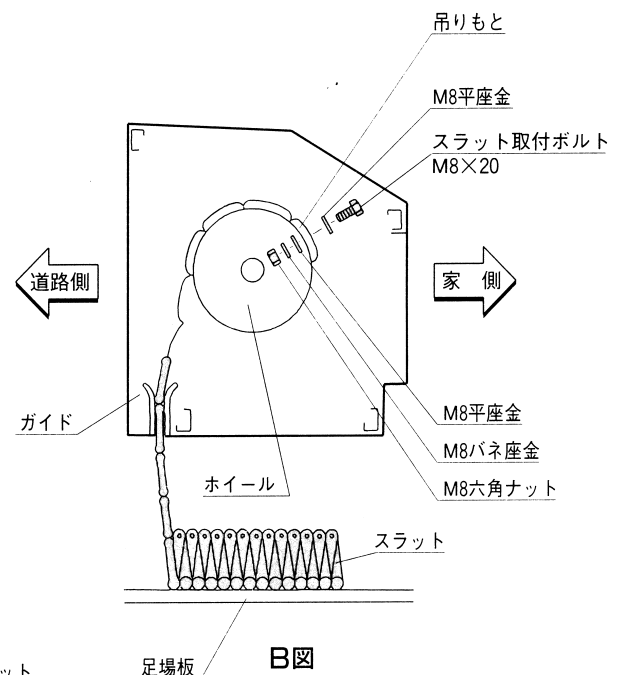
19. スラットの取付け(ステン・スチールの場合)

スラットの取付けは駆動ギアがアウターホイールからはずれていることを確認したあと、行なってください。
もしもはずれていない場合は、開閉機のクラッチ解放部を押し下げてください。(A図参照)

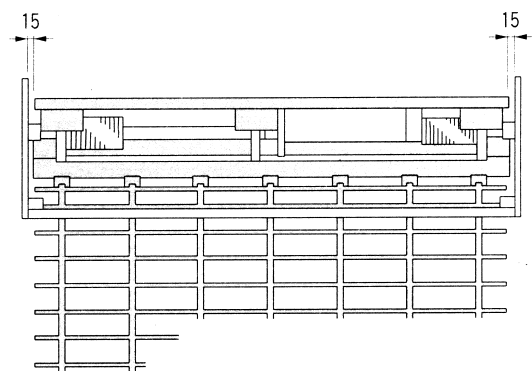
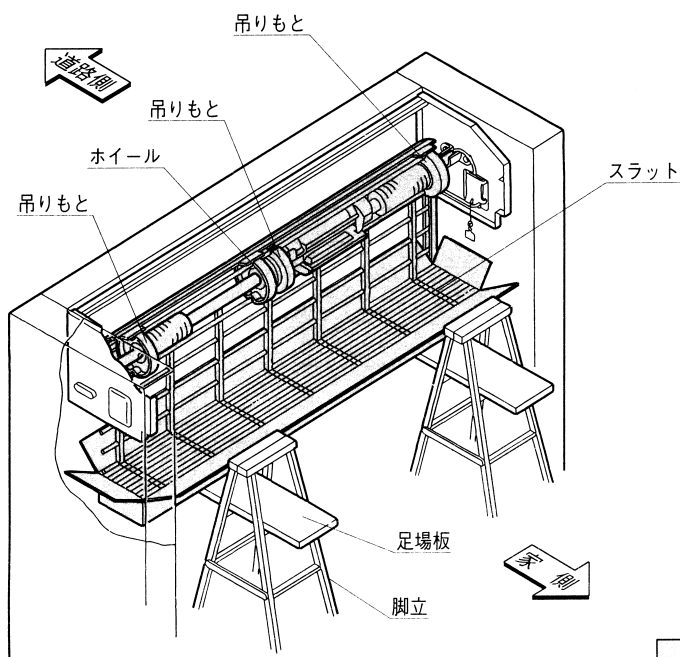
- ① 脚立(6尺)の上から2段目で足場を組んでください。
- ② 吊りもと用スラットを足場板の上にのせてください。
吊りもとがB図の向きになるようにスラットを置いてください。
- ③ 吊りもと用スラットを少しほどいてください。
- ④ 吊りもと用スラット端部をガイドに通しながら吊りもとをホイール部まで引き上げてください。
- ⑤ 中央の吊りもとをスラット取付ボルトM8×20でホイールへ固定してください。
- ⑥ 両端の吊りもとをスラット取付ボルトM8×20でホイールへ固定してください。
- ⑦ 足場をはずして、吊りもと用スラットを静かにたらしってください。



A図



B図

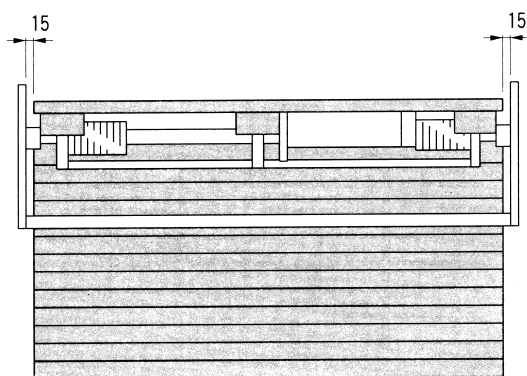
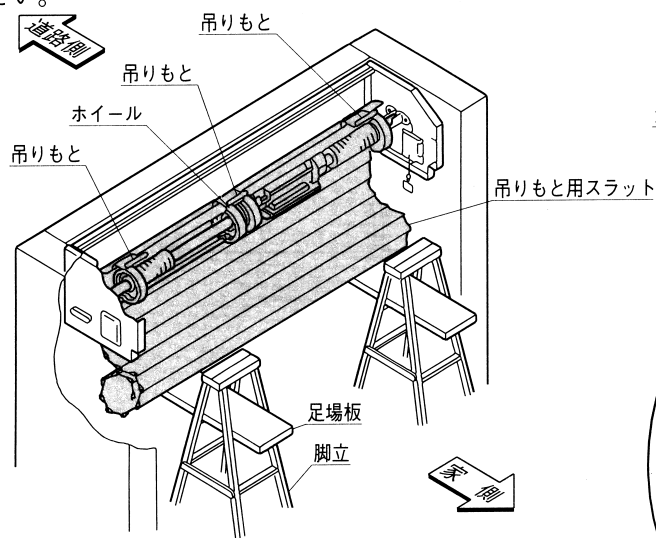


スラット端部とブラケットのすき間が左右同じく(15mm)になるようにスラットをずらして吊りもとを固定してください。

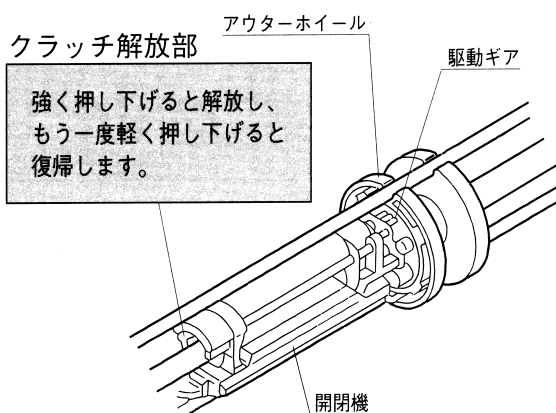
20. スラットの取付け (アルミの場合)

スラットの取付けは駆動ギアがアウターホイールからはずれていることを確認したあと、行なってください。
もしもはずれていない場合は、開閉機のクラッチ解放部を押し下げてはずしてください。(A図参照)

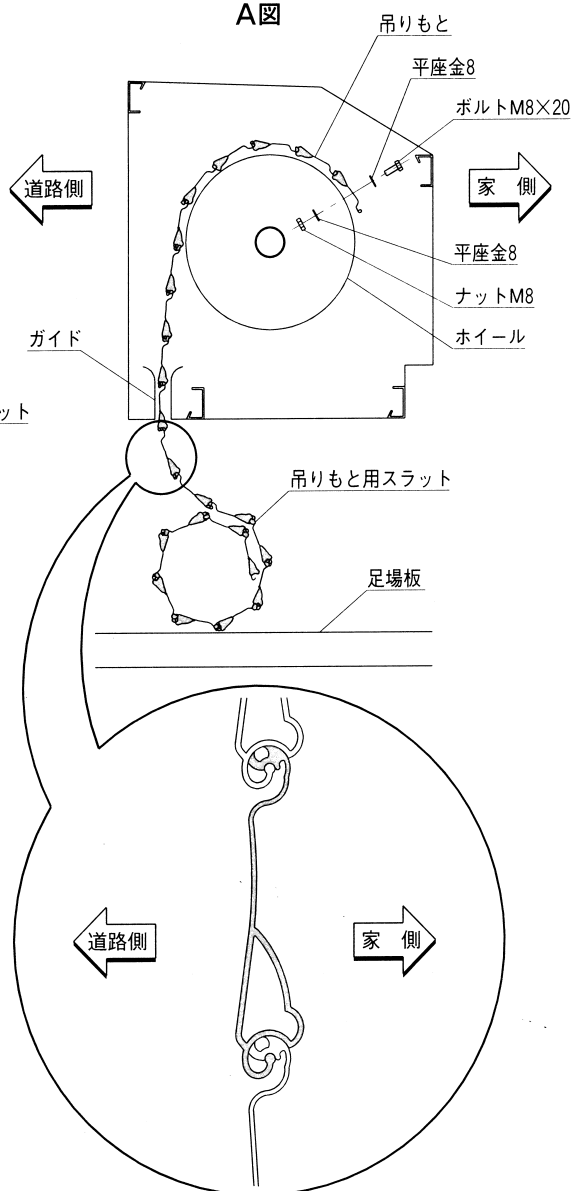
- ① 脚立(6尺)の上から2段目で足場を組んでください。
- ② 吊りもと用スラットを足場板の上にのせてください。
吊りもとがB図の向きになるようにスラットを置いてください。
- ③ 吊りもと用スラットを少しほどいてください。
- ④ 吊りもと用スラット端部をガイドに通しながら吊りもとをホイール部まで引き上げてください。
- ⑤ 中央の吊りもとをスラット取付ボルトM8×20でホイールへ固定してください。
- ⑥ 両端の吊りもとをスラット取付ボルトM8×20でホイールへ固定してください。
- ⑦ 足場を外して、吊りもと用スラットを静かにたらしってください。



スラット端部とブラケットのすき間が左右同じく(15mm)になるようにスラットをずらして吊りもとを固定してください。

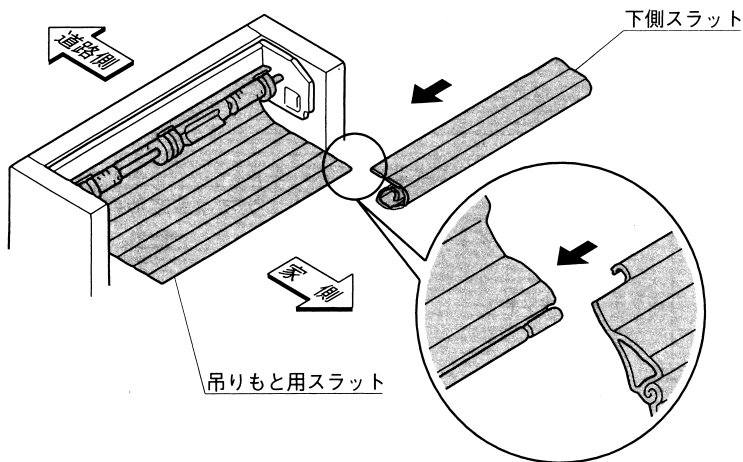


A図

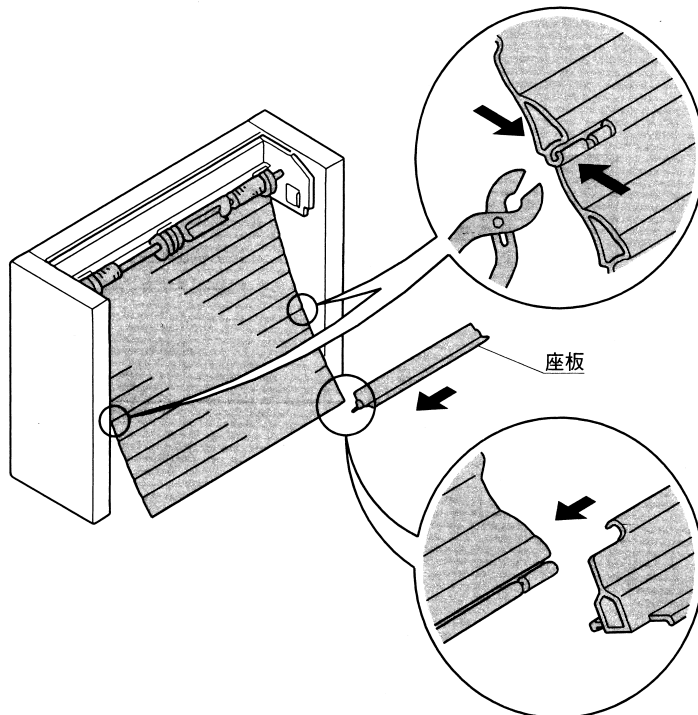


スラットの向きに注意して下さい。

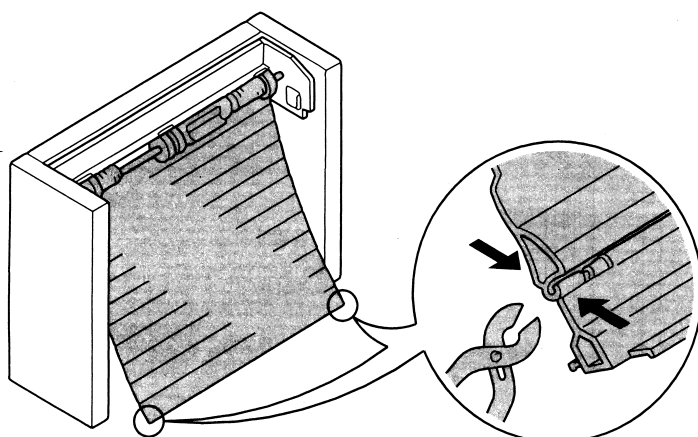
B図



- ⑧ 吊りもと用スラットを家側へ引き出し、下側スラットをスライドさせてください。



- ⑨ 吊りもと用スラットと下側スラットの連結部の両端をかしめてください。

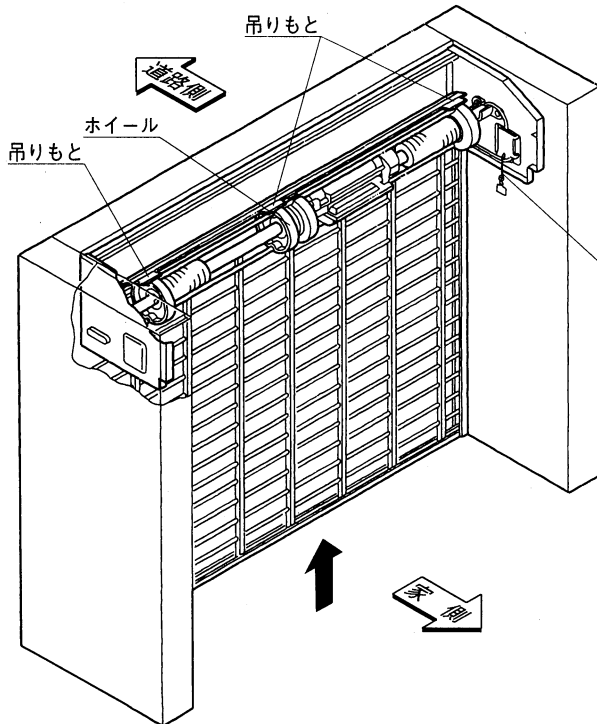


- ⑩ スラットを家側へ引き出し、座板をスライドさせてください。

- ⑪ スラットと座板の連結部の両端をかしめてください。

- ⑫ スラットと座板の養生シートをはがしてください。

21. スラットの巻取り

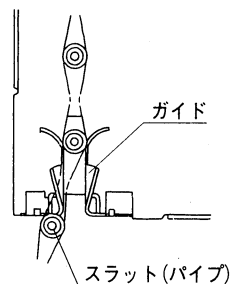
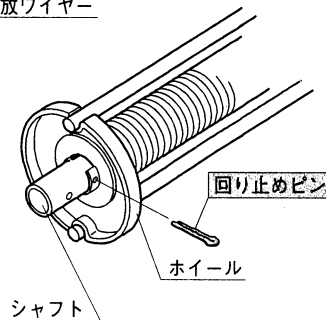


- ① ホイールとシャフトを固定している両端の回り止めピンを抜いてください。

スラットを取付けるまで、回り止めピンを絶対に抜かないでください。

- ② 静かにスラットを巻上げてください。
クラッチが入っているときは、クラッチ解放ワイヤーを引っぱり、クラッチを切ってください。

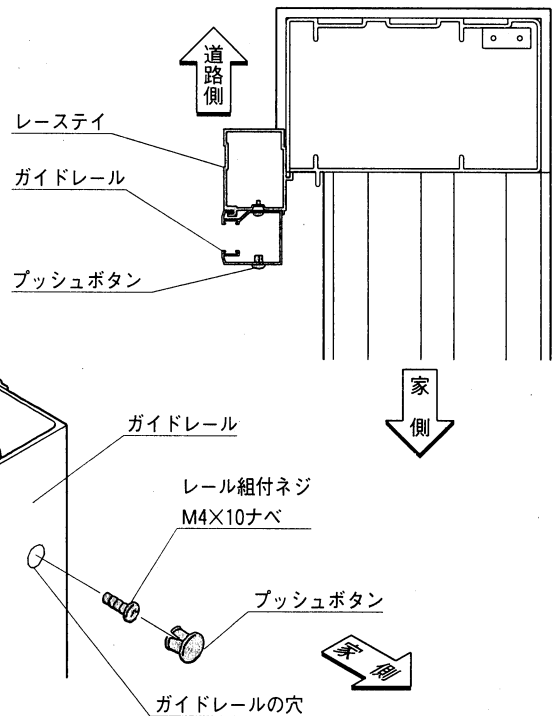
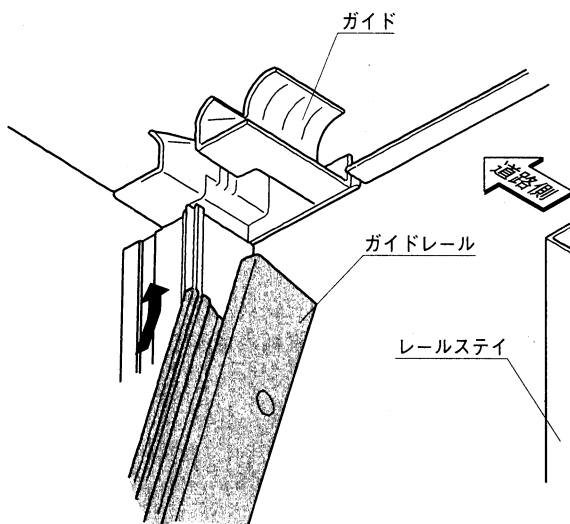
クラッチ解放ワイヤー



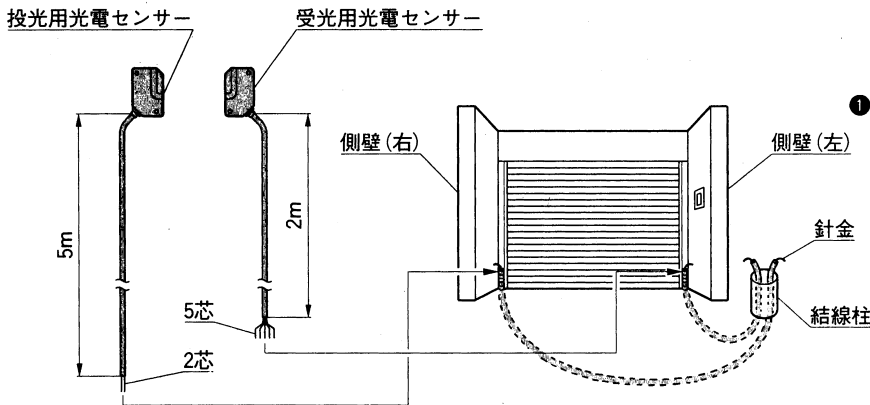
ガイドレールが無い場合、スラット (パイプ) が引っかからないように注意してください。

22. ガイドレールの取付け

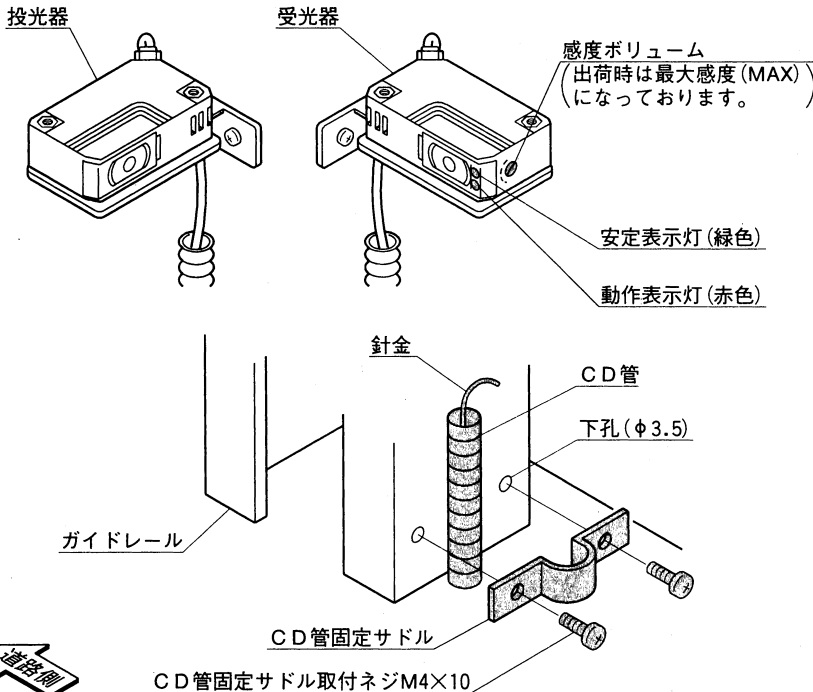
- ① ガイドレールをレールステイへはめ込みながらガイドへ差し込んでください。
ガイドレールの向きに注意してください。
- ② ガイドレールをレール取付ネジM4×10ナベでレールステイへ固定してください。
- ③ ガイドレールの穴をプッシュボタンで塞いでください。



23. 光電センサーの取付け



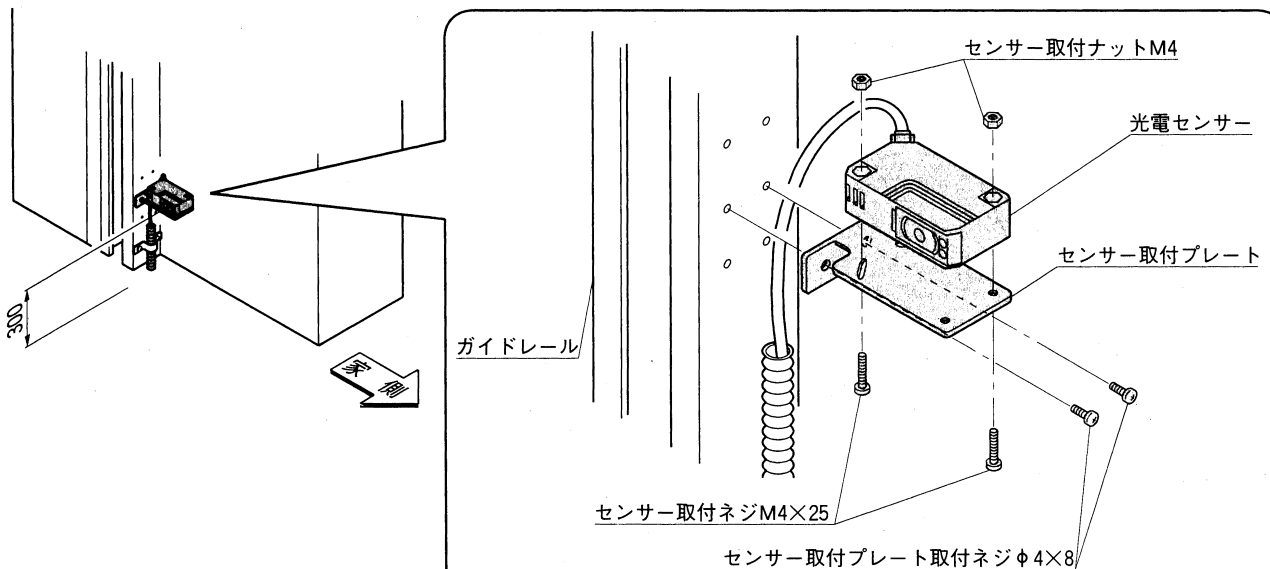
- ① 光電センサーケーブルを、本体レール下部側より結線柱にCD管付属の針金を利用して通してください。
なお、5mケーブルの投光用光電センサーは側壁(右)から、2mケーブルの受光用光電センサーは側壁(左)から通してください。



- ② G.L.以下のガイドレールの任意の位置にCD管固定サドルの孔を合わせて下孔(φ3.5)をドリルであけてください。
- ③ CD管固定サドルを取付ネジφ4×10で取付けて、CD管を固定してください。
- ④ ガイドレールに光電センサー取付プレートをセンサー取付プレートネジφ4×8で取付けてください。
- ⑤ センサー取付プレートに光電センサーを、センサー取付ネジM4×25とセンサー取付ナットM4で取付けてください。

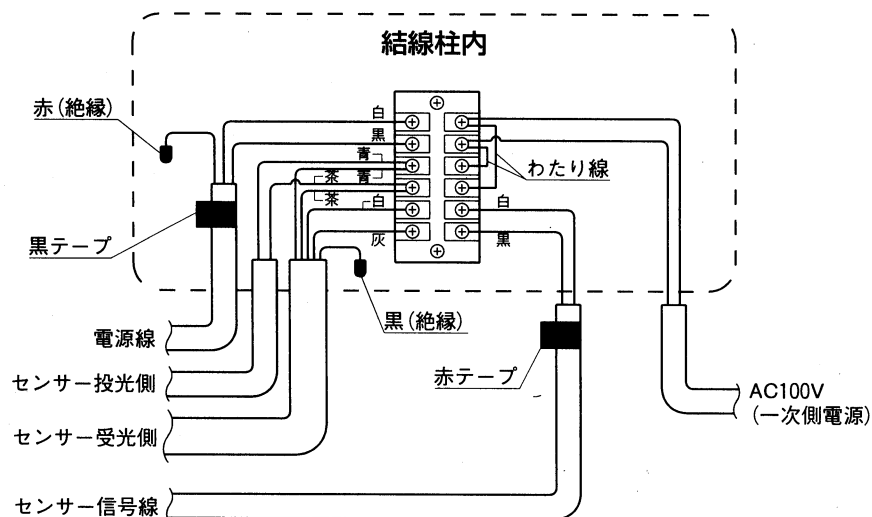
注 意

- 光電センサーは左右両レールにありますので両方取付けてください。



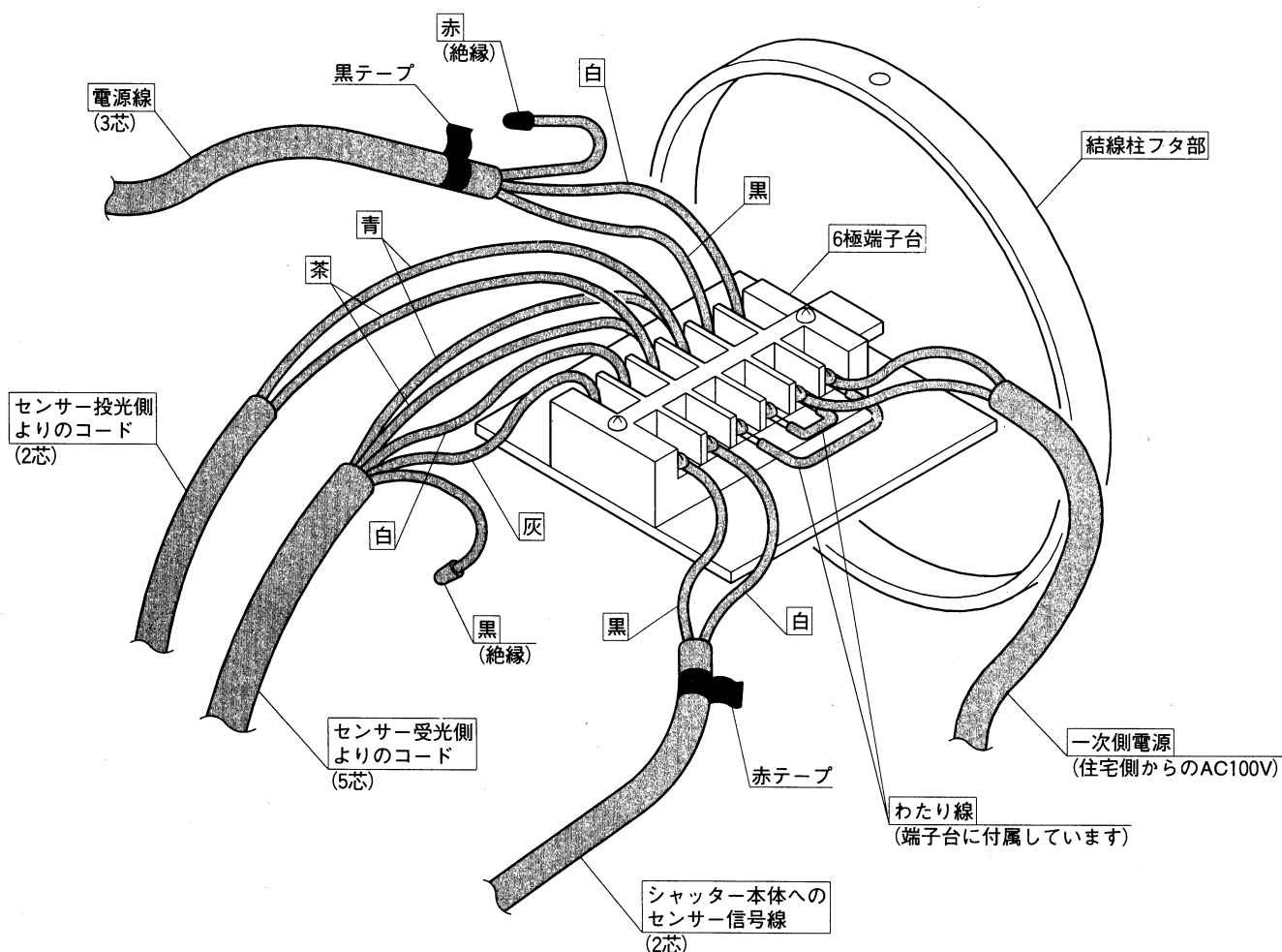
24. 結線（この結線工事のみ、有資格の電気工事店様へご依頼ください）

左図は結線柱内での電源およびセンサーの結線を示します。結線図に従って結線を行ってください。なお、これらの結線工事は有資格の電気工事店様へご依頼ください。

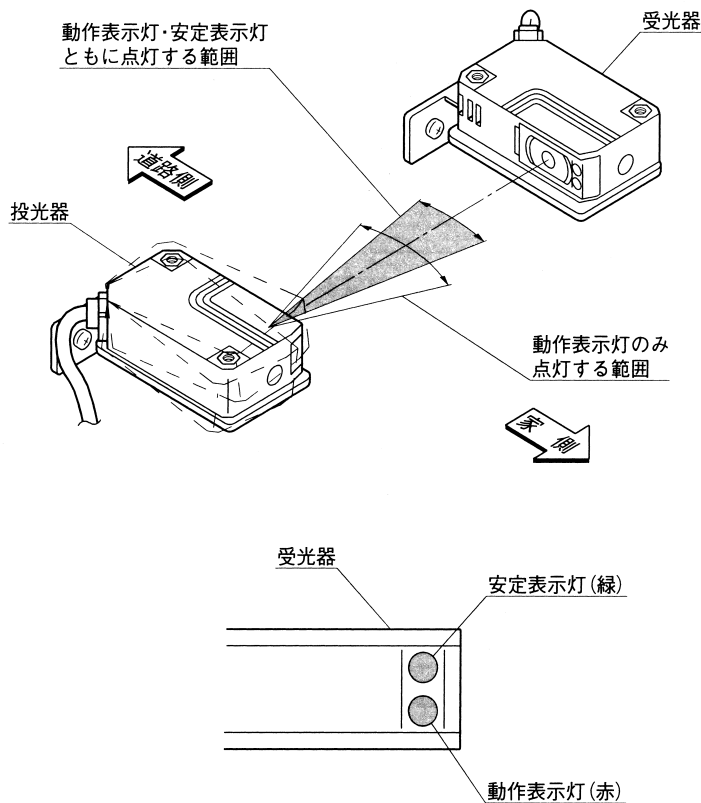


注 意

- 家側よりのAC100V電源が切れていることを確認してください。
- 結線図とリード線の色で、結線に間違いがないことを確認してから電源を入れてください。

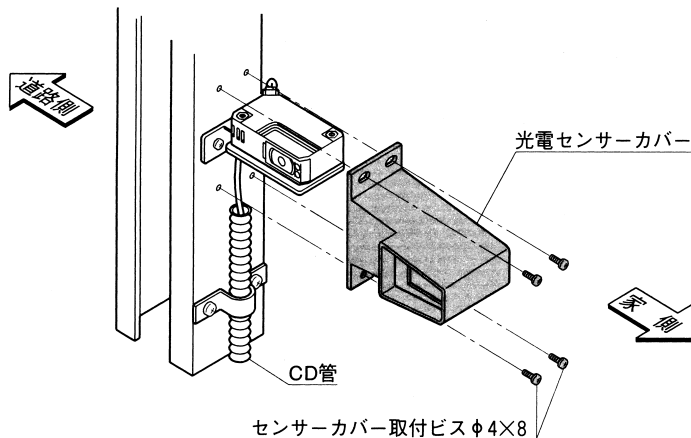


25. 光電センサーの調整



- ① 電源を入れてください。
- ② 投光器と受光器をほぼ一直線上にして仮固定をしてください。
- ③ 投光器を左右方向に動かして、動作表示灯(赤色)が点灯している範囲のほぼ中央に設置してください。
(このときに、動作表示灯(赤色)・安定表示灯(緑色)ともに点灯している場合は、この位置でセンサーを固定してください。)
- ④ 上下方向に対しても同様に上記の調整を行ってください。
- ⑤ 受光器に対しても③・④の調整を行ない動作表示灯・安定表示灯ともに点灯している位置で固定してください。

安定表示灯	動作表示灯	調整状況
点灯	点灯	正常 待機時(安定入光)
消灯	点灯	光軸の調整が必要です。
消灯	消灯	
点灯	消灯	正常 障害物検知時(待機時にこの状態のときは、光軸調整が必要です。)



注 意

● 感度調整など、光電センサーの詳細については光電センサー付属の説明書を参照してください。

- ⑥ 光電センサーカバーをセンサーカバー取付ビスφ4×8で取付けてください。

注 意

● 光電センサーカバーには左右があります。CD管用穴がある方が下側です。

26. 上限、下限の停止位置の設定および配線図

これらの操作は、電源(AC100V)を結線後行なってください。なお、電気工事は有資格の電気工事店様にご依頼ください

上限、下限の停止位置を設定するまでは電動操作は絶対に行なわないでください。

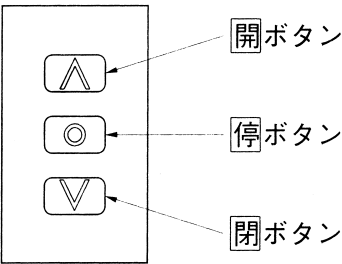
- 上限、下限の停止位置の設定は押しボタンスイッチで行ないます。
- 上限、下限スイッチの設定は電源投入後5分以内に行なってください。5分を超えた場合は、電源を入れ直してください。
- クラッチを入れて電源操作に切り替えたあと、次の操作を行なってください。

1) 上限の設定

- ① 開ボタンを押しながら閉ボタンを3回押してください。
 - ② 閉ボタンを離してください。
 - ③ ブザーが鳴り、押しボタンを押したときだけ動作する押し切りとなります。
 - ④ 上限ボタンの設定位置まで動かしてください。
 - ⑤ 開ボタンを押しながら閉ボタンを3回押してください。
 - ⑥ 閉ボタンを離してください。
- (ブザーが鳴り止み、上限の設定完了)

2) 下限の設定

- ① 開ボタンを押しながら閉ボタンを3回押してください。
- ② 閉ボタンを離してください。
- ③ ブザーが鳴り、押しボタンを押したときだけ動作する押し切りとなります。



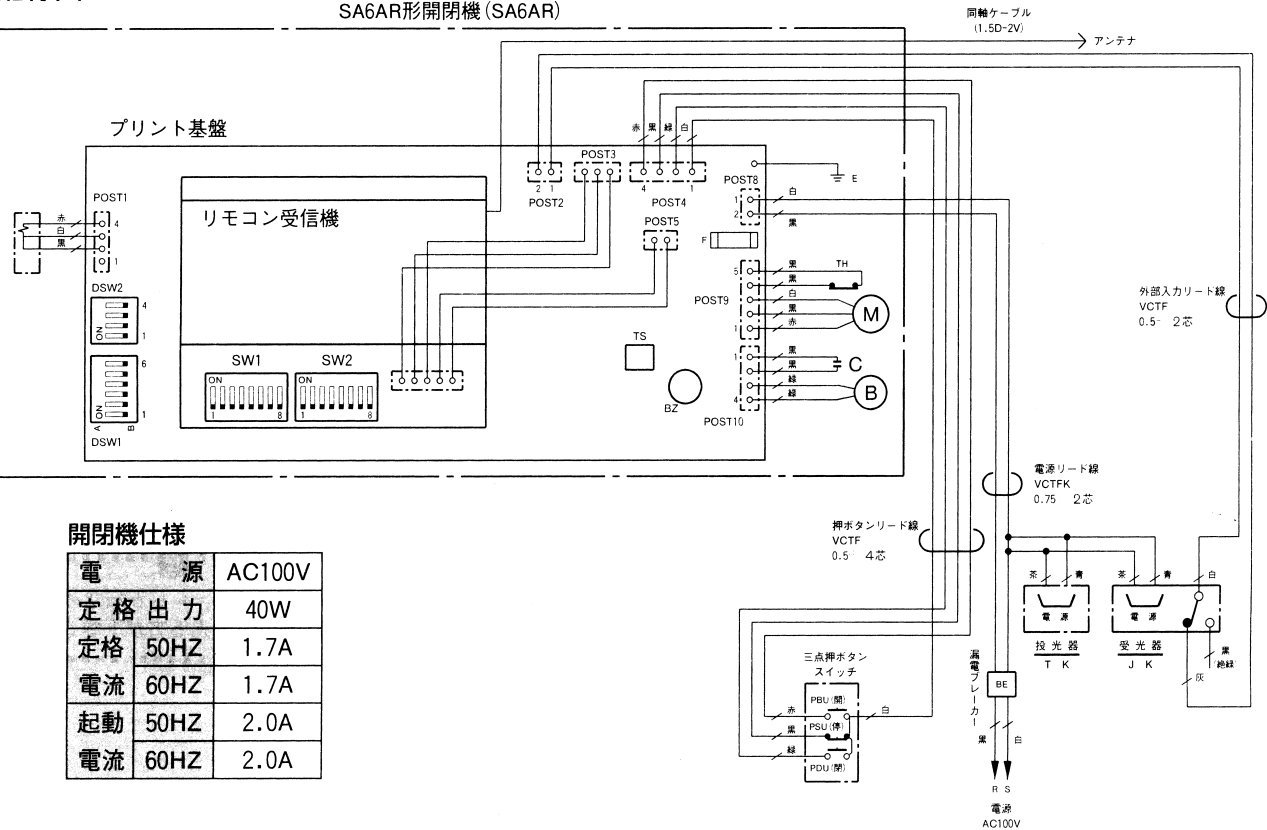
- ④ 下限の設定位置まで動かしてください。
 - ⑤ 開ボタンを押しながら閉ボタンを3回押してください。
 - ⑥ 閉ボタンを離してください。
- (ブザーが鳴り止み、下限の設定完了)

下限の設定時にブザーが鳴り止まない場合は③の状態です。次の動作を行ってください。

- シャッターを下限からさらに1秒間位下げてください。
- 下限の位置へ戻してください。
- ⑤、⑥を繰り返してください。
- 次にもう一度上限を設定し直してください。

設定後の1回だけは停止位置がわずかにずれますが、2回目以降は設定位置で停止します。

配線図



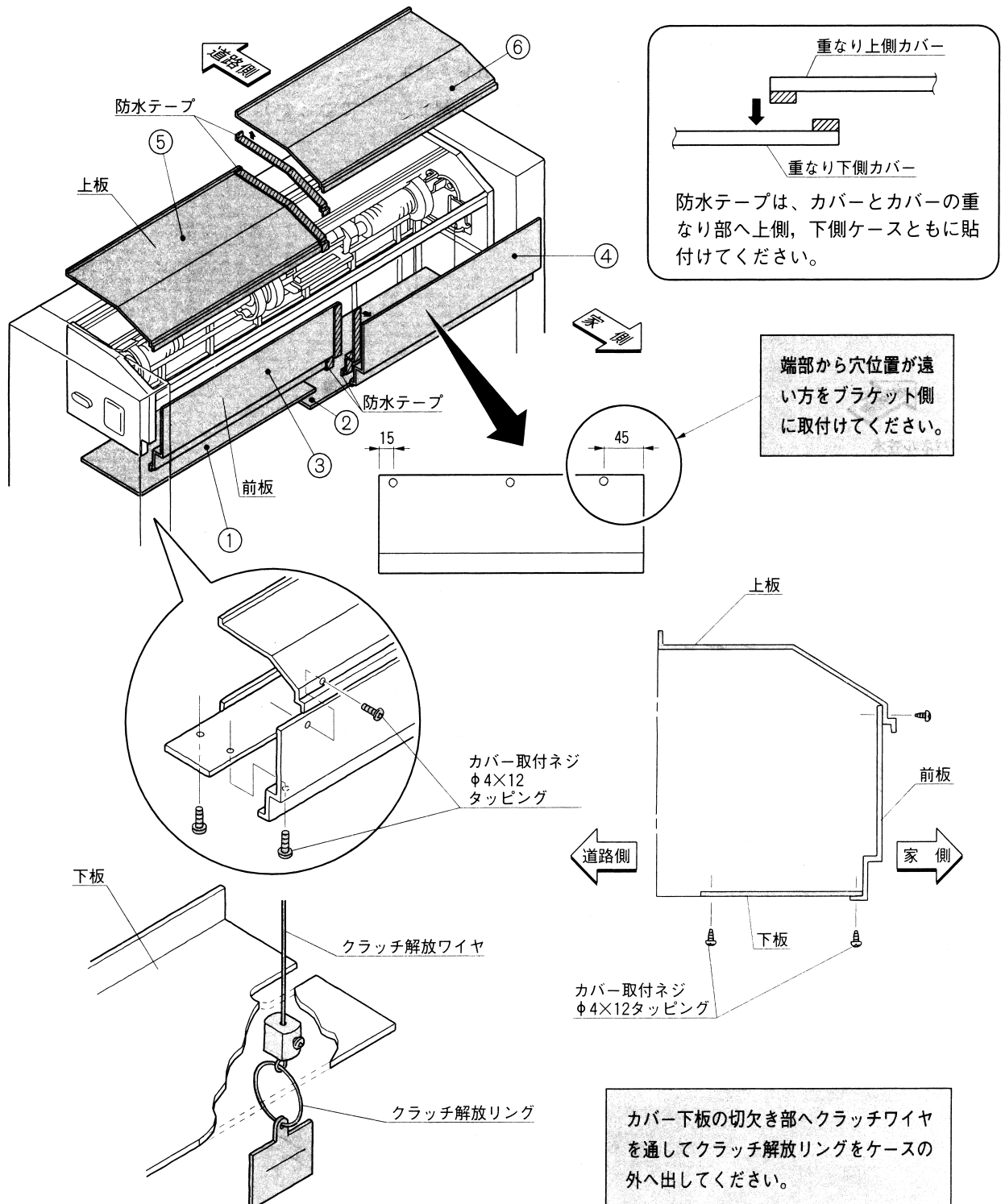
開閉機仕様	
電 源	AC100V
定 格 出 力	40W
定 格	50HZ 1.7A
電 流	60HZ 1.7A
起 動	50HZ 2.0A
電 流	60HZ 2.0A

27. カバーの取付け

カバーに表示されている数字に従って、取付けを行なってください。

全てのカバーを取付けるまではネジは仮止めとしてください。

- ① ③～⑥の4枚のカバーに防水テープを貼付けてください。
- ② 下板の内まぐさ側(奥側)を、カバー取付ネジ $\phi 4 \times 12$ タッピングで固定してください。
- ③ 前板の下側と下板の手前側を重ねて、カバー取付ネジ $\phi 4 \times 12$ タッピングでカバーアングルに固定してください。
- ④ 上板の手前と前板の上側を重ねて、カバー取付ネジ $\phi 4 \times 12$ タッピングでカバーアングルに固定してください。
- ⑤ 上板の躯体側をカバー取付ネジ $\phi 4 \times 12$ タッピングで、カバーアングルへ固定してください。



28. 笠木、笠木コーナーキャップ、端部キャップの取付け

- ❶ 図1のようにアンテナをφ4×19テクスネジで前面パネル笠木へ取付けてください。(位置は任意です。)
- ❷ アンテナ線をシャフト側のアンテナ線と接続してください。
- ❸ 側壁笠木と端部キャップをナベ小ネジ(φ4×14)で取付けてください。
- ❹ シャッター本体に笠木コーナーキャップ、笠木をのせてください。
- ❺ 笠木受け材へピասネジ(φ4×19)を取付ける場合は、図2のように笠木の孔に合わせてドリルでφ3.5の下孔をあけてください。
- ❻ 笠木コーナーキャップと笠木をナベ小ネジ(φ4×14)で組付けてから、ピասネジ(φ4×19)で笠木を取付けてください。
[笠木コーナーキャップの取付けには、ナベ小ネジ(φ4×14)とピասネジ(φ4×19)を使用しますので、取付位置の確認をお願いします。]
※ピասネジ(φ4×19)を使用して組付ける部品の、下孔はありません。
- ❼ 笠木とコーナーキャップ、端部キャップの合わせ目をシール剤で処理してください。

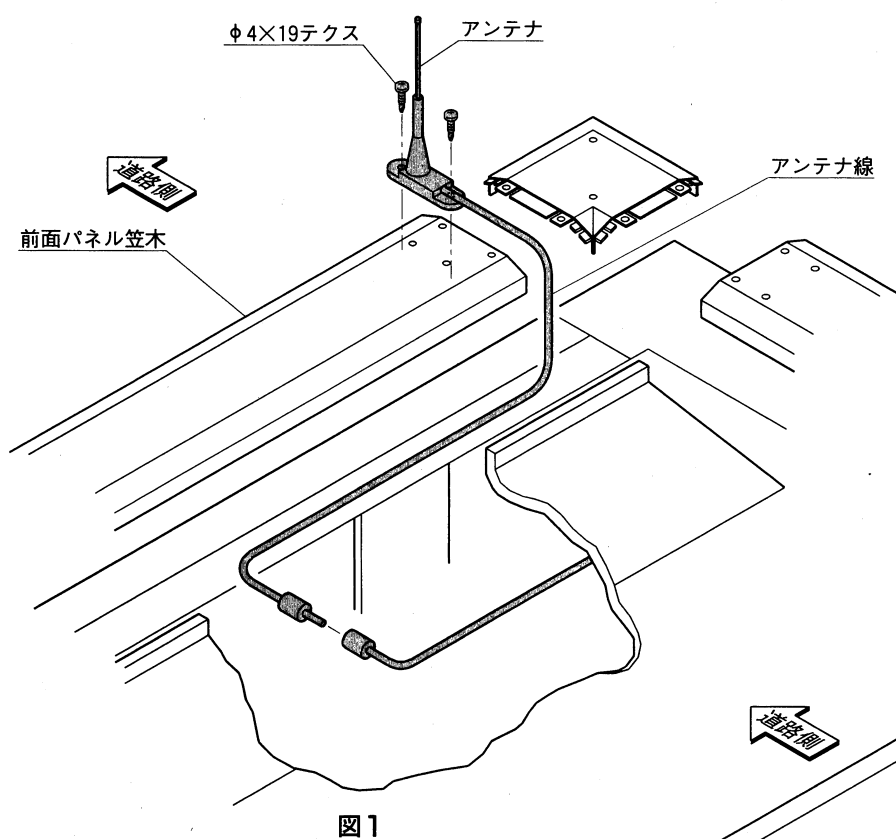


図1

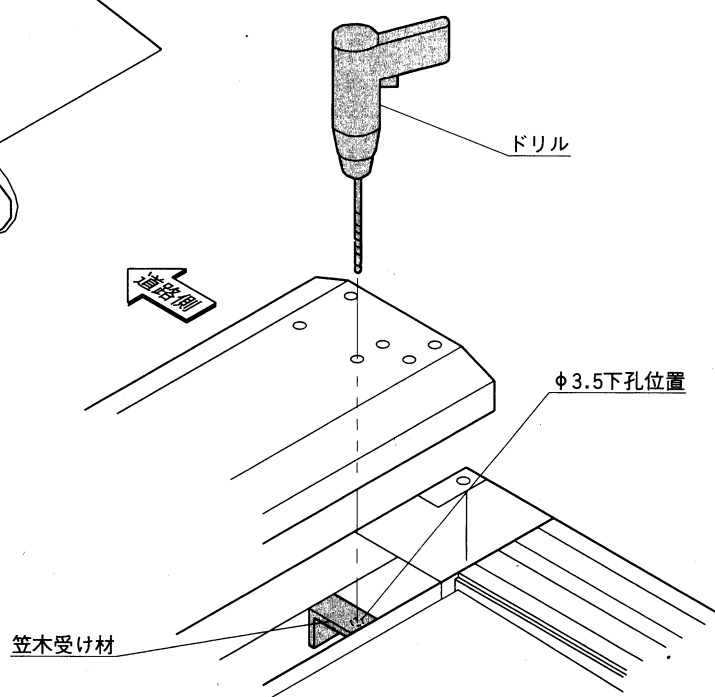
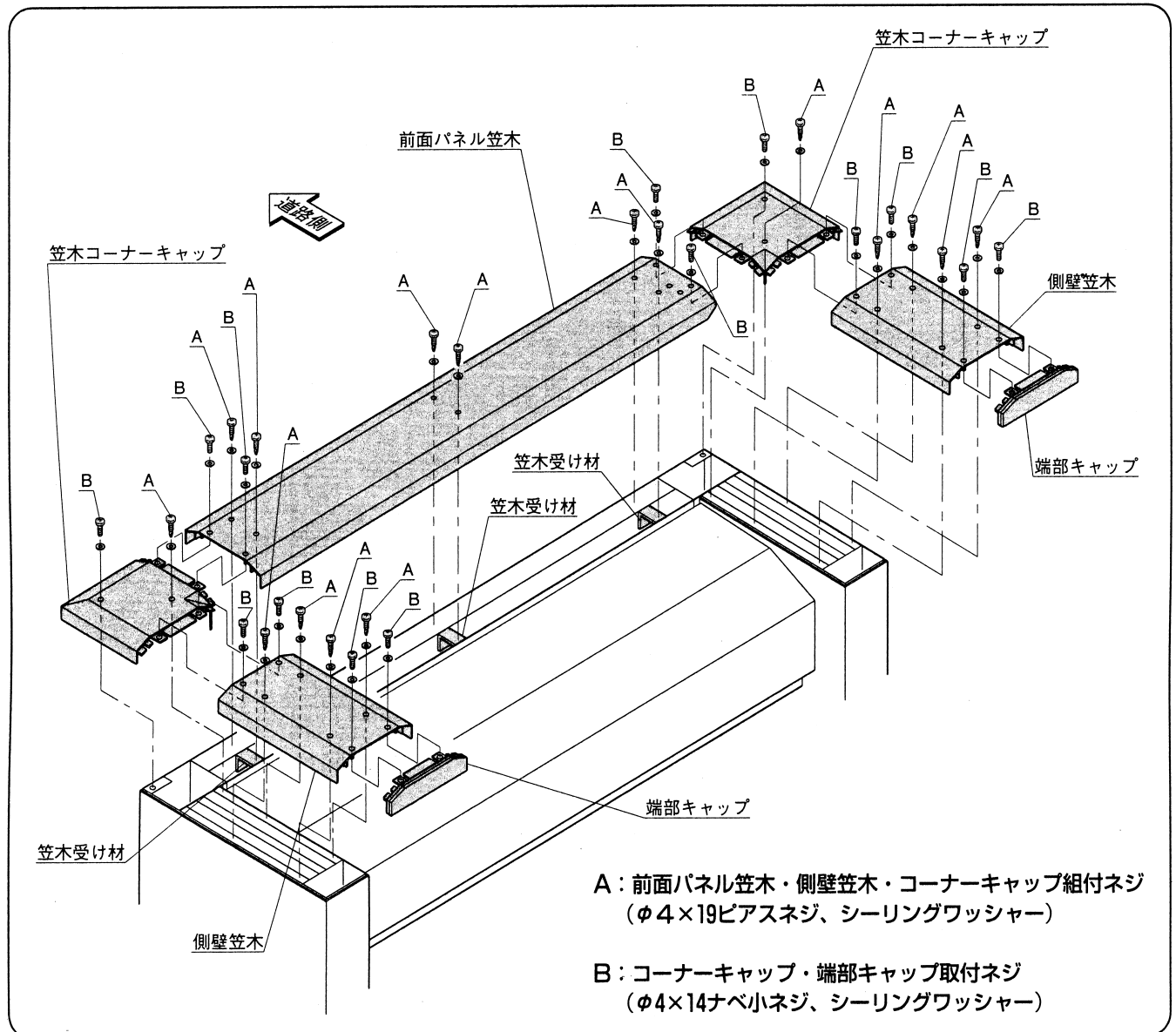


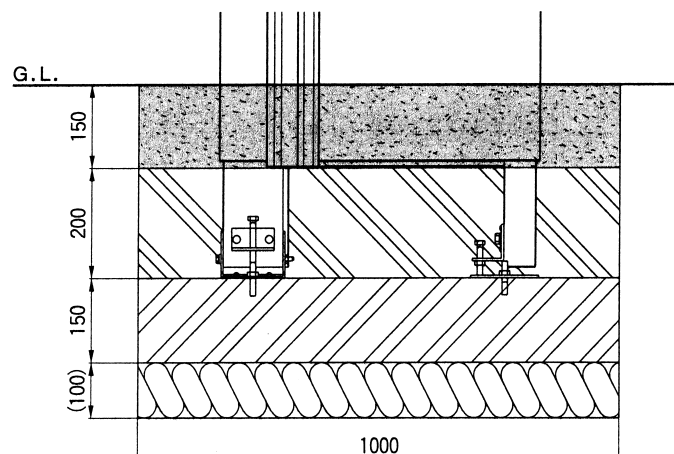
図2

28. つづき



29. 土間コンクリート打ち

G.L.まで、土間コンクリートの打設をお願いします。





工事店様へ

- 仕上げ後、本体についているモルタルを完全に拭き取ってください。
硬化後拭き取りますと表面を痛めますのでご注意ください。
- みだりに改造、変更はしないでください。
- 施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。
- ご使用いただきましてありがとうございました。

施主様へ

- シャッター使用の際には必ず、スイッチボックス内の注意書きシートをお読みください。
- 月に一度程度のお手入れで美しさが長く保てます。汚れの軽い場合は水にぬらした柔らかいぞうきんで拭き取ってください。
また汚れのひどい場合はうすめた中性洗剤で拭き取ったのち洗剤が残らないように拭き取ってください。

取説コード

D263

98-03A
200103D